

2024(令和6)年度
リハビリテーション学部
シラバス

リハビリテーション学部 目次

学修成果（到達目標）、カリキュラムマップ	4
カリキュラムツリー	8
年間予定表	12

1年生

理学療法学専攻、作業療法学専攻 共通科目シラバス	16
--------------------------	----

開講科目	頁
日本語表現法	16
英語Ⅰ	17
英語Ⅱ	18
情報処理Ⅰ	19
情報処理Ⅱ	20
哲学	21
心理学	22
宗教と民族	23
人間関係論	24
法学入門	25
日本国憲法	26
経済と政策	27
社会学	28
社会保障論	29
物理学	30

開講科目	頁
生物学	31
健康スポーツⅠ	32
解剖学Ⅰ	33
解剖学Ⅱ	34
解剖学演習	35
解剖学実習	36
生理学Ⅰ	38
運動学総論	39
運動学演習Ⅰ	40
運動学演習Ⅱ	41
人間発達学	42
栄養学	43
救急救命学	44
リハビリテーション概論	45

理学療法学専攻 専門科目シラバス

開講科目	頁
理学療法学概論	48
トランスレーショナルセミナーⅠ	49

.....	48
開講科目	頁
臨床実習Ⅰ（体験実習）	50

作業療法学専攻 専門科目シラバス

開講科目	頁
作業療法学概論	52
基礎作業学	53
トランスレーショナルセミナーⅠ	54

.....	52
開講科目	頁
臨床実習Ⅰ（体験実習）	55
地域生活支援論	56

ナンバリング	58
教員一覧	61
実務経験を有する教員一覧	62
オフィスアワー・成績評価	63

リハビリテーション学部 1年生

- 学修成果（到達目標）
- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー
- 年間予定表
- 理学療法学専攻
作業療法学専攻
共通科目シラバス

リハビリテーション学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻 カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

1 【人間基盤力】

人間愛の精神を根底とする豊かな教養と生命の尊厳に基づく高い倫理観を身につけ、物事を多角的に理解し思考する力

2 【連携協働力】

多職種連携の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携、協働する力

3 【専門実践力】

理学療法に関する幅広い知識・技術を身につけ、対象者の多様な病態に対して科学的根拠に基づく理学療法を実践できる力

4 【学術探究力】

学修課題や目標に主体的に取り組み、理学療法学を学術的に探究できる力

5 【課題解決力】

地域の課題及び対象者の状況やニーズを正しく捉え、リハビリテーションに関する問題を適切に解決できる力

学修成果とは、学生がその授業科目で身に付けるべき資質・能力（何ができるようになるのか）を表すものです。

●は、各授業科目が、学修成果の1～5のどれを身に付けることを目指すものかを表しています。

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次								
		必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年		
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養科目	日本語表現法	1		15	●						○							
	英語Ⅰ	1		8	●						○							
	英語Ⅱ	1		15	●						○							
	英語Ⅲ		1	15	●			●										○
	情報処理Ⅰ	1		15	●						○							
	情報処理Ⅱ	1		15	●						○							
	ICT活用技術		1	15	●			●				○						
選択科目から2単位以上を修得	哲学	1		8	●			●			○							
	生命倫理学	1		8	●	●		●						○				
	心理学	1		8	●	●		●			○							
	教育心理学	1		8	●			●				○						
	宗教と民族		1	8	●			●			○							
	人間関係論	1		8	●	●		●			○							
社会科学系	法学入門	1		8	●						○							
	日本国憲法		1	8	●						○							
	経済と政策	1		8	●						○							
	教育学概論	2		15	●			●					○					
	社会学		1	8	●			●			○							
	社会保障論		1	8	●			●			○							
自然科学系	物理学	1		8	●		●	●			○							
	生物学	1		8	●		●	●			○							
	自然環境と災害	1		8	●				●				○					
	統計学入門	1		8	●			●				○						
	健康スポーツⅠ		1	8	●						○							
	健康スポーツⅡ		1	15	●								○					
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	2		15	●		●				○							
	解剖学Ⅱ	2		15	●		●				○							
	解剖学演習	1		15	●		●				○							
	解剖学実習	1		20	●		●					○						
	生理学Ⅰ	2		15			●					○						
	生理学Ⅱ	2		15			●					○						
	生理学実習	1		20			●						○					
	運動学総論	1		8			●				○							
	運動学演習Ⅰ	1		15			●					○						
	運動学演習Ⅱ	1		15			●					○						
	運動学実習	1		20			●						○					
	機能解剖学実習	1		20			●							○				
	臨床運動学	2		15			●							○				
	人間発達学	1		8			●					○						

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次								
		必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年		
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	薬理学	1		8			●						○					
	病理学	1		8			●						○					
	小児科学	1		8			●						○					
	老年学	1		8			●							○				
	内科学	2		15			●						○					
	神経学	2		15			●						○					
	整形外科学	2		15			●						○					
	精神医学	2		15			●						○					
	臨床心理学	1		8			●						○					
	栄養学	1		8			●						○					
	救急救命学	1		8		●	●				○							
	公衆衛生学	1		8			●		●						○			
	言語聴覚療法概論	1		8		●	●							○				
	臨床検査・画像診断学	1		8			●								○			
保健医療福祉と リハビリテーションの 理念	リハビリテーション概論	2		15		●	●		●				○					
	チームアプローチ入門	1		15		●	●		●					○				
	保健医療福祉連携論	1		15		●	●		●									○
基礎理学療法学	理学療法学概論	2		15	●		●	●			○							
	トランスレーショナルセミナーⅠ	1		15	●	●	●	●			○							
	トランスレーショナルセミナーⅡ	1		15	●	●	●	●				○						
	トランスレーショナルセミナーⅢ	1		15	●	●	●	●	●						○			
	トランスレーショナルセミナーⅣ	1		15	●	●	●	●	●									○
	理学療法研究法Ⅰ	1		8			●	●	●									○
	理学療法研究法Ⅱ	2		30			●	●	●									○
理学療法管理学	理学療法管理学	2		15	●	●	●	●										○
理学療法評価学	理学療法評価学	1		8			●					○						
	基礎理学療法評価学実習	1		20			●					○						
	運動器障害理学療法評価学実習	1		20			●						○					
	神経障害理学療法評価学実習	1		20			●							○				
	内部障害理学療法評価学演習	1		15			●								○			
	理学療法評価学総合実習	1		20			●									○		
専門科目 選択科目から2単位以上を修得	運動器障害理学療法学	2		15			●								○			
	運動器障害理学療法演習	2		30			●	●								○		
	神経障害理学療法学	2		15			●								○			
	神経障害理学療法演習	2		30			●	●								○		
	高次脳機能障害学	1		8			●									○		
	内部障害理学療法学	2		15			●								○			
	内部障害理学療法演習	2		30			●	●								○		
	神経筋疾患理学療法学	2		15			●									○		
	小児理学療法学	1		8			●								○			
	物理療法学	2		15			●						○					
	物理療法演習	1		15			●	●					○					
	義肢装具学	2		15			●								○			
	義肢装具学演習	1		15			●	●								○		
	日常生活活動学	2		15			●						○					
	日常生活活動学実習	1		20			●	●						○				
	予防理学療法学	2		15		●			●									○
	スポーツ理学療法	2		30		●		●										○
	疼痛理学療法	1		8			●											○
先端理学療法	1		8			●	●	●									○	
臨床実習	臨床実習Ⅰ（体験実習）	1		45h	●	●	●	●	●				○					
	臨床実習Ⅱ（評価実習）	4		180h	●	●	●	●	●						○			
	臨床実習Ⅲ（総合実習）	7		315h	●	●	●	●	●									○
	臨床実習Ⅳ（総合実習）	7		315h	●	●	●	●	●									○
	地域リハビリテーション実習	1		45h	●	●	●	●	●							○		
地域理学療法学	地域理学療法学	1		8			●	●	●						○			
	地域理学療法演習	1		15			●	●	●							○		
	生活環境論	1		8			●	●	●									○
特別演習	理学療法学総合演習Ⅰ	1		15			●	●	●							○		
	理学療法学総合演習Ⅱ	1		15			●	●	●									○

卒業要件単位数 129単位以上

リハビリテーション学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻
カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

1【人間基盤力】

人間愛の精神を根拠とする豊かな教養と生命の尊厳に基づく高い倫理観を身につけ、物事を多角的に理解し思考する力

2【連携協働力】

多職種連携の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携、協働する力

3【専門実践力】

作業療法に関する幅広い知識・技術を身につけ、対象者の多様な病態や作業ニーズを捉え作業療法を実践できる力

4【学術探究力】

学修課題や目標に主体的に取り組み、作業療法学を学術的に探究できる力

5【課題解決力】

地域の課題及び対象者の状況やニーズを正しく捉え、リハビリテーションに関する問題を適切に解決できる力

学修成果とは、学生がその授業科目で身に付けるべき資質・能力（何ができるようになるのか）を表すものです

●は、各授業科目が、学修成果の1～5のどれを身に付けることを目指すものを表しています。

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次								
		必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年		
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養科目	日本語表現法	1		15	●						○							
	英語 I	1		8	●						○							
	英語 II	1		15	●						○							
	英語 III		1	15	●			●										○
	情報処理 I	1		15	●						○							
	情報処理 II	1		15	●						○							
	ICT活用技術		1	15	●			●				○						
選択科目から2単位以上を修得	哲学	1		8	●			●			○							
	生命倫理学	1		8	●	●		●						○				
	心理学	1		8	●	●		●			○							
	教育心理学	1		8	●			●				○						
	宗教と民族		1	8	●			●			○							
	人間関係論	1		8	●	●		●			○							
社会科学系	法学入門	1		8	●						○							
	日本国憲法		1	8	●						○							
	経済と政策	1		8	●						○							
	教育学概論	2		15	●			●					○					
	社会学		1	8	●			●			○							
自然科学系	社会保障論		1	8	●			●			○							
	物理学	1		8	●		●	●			○							
	生物学	1		8	●		●	●			○							
	自然環境と災害	1		8	●				●				○					
	統計学入門	1		8	●			●				○						
	健康スポーツ I		1	8	●						○							
専門基礎科目	健康スポーツ II		1	15	●								○					
	解剖学 I	2		15	●		●				○							
	解剖学 II	2		15	●		●				○							
	解剖学演習	1		15	●		●				○							
	解剖学実習	1		20	●		●					○						
	生理学 I	2		15			●					○						
	生理学 II	2		15			●					○						
	生理学実習	1		20			●						○					
	運動学総論	1		8			●				○							
	運動学演習 I	1		15			●					○						
	運動学演習 II	1		15			●					○						
	運動学実習	1		20			●						○					
	機能解剖学実習	1		20			●						○					
	臨床運動学	2		15			●						○					
	人間発達学	1		8			●					○						

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次										
		必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年				
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門基礎科目	薬理学	1		8			●					○								
	病理学	1		8			●						○							
	小児科学	1		8			●						○							
	老年学	1		8			●								○					
	内科学	2		15			●					○								
	神経学	2		15			●						○							
	整形外科	2		15			●					○								
	精神医学	2		15			●					○								
	精神医学演習	1		15			●						○							
	臨床心理学	1		8			●						○							
	栄養学	1		8			●					○								
	救急救命学	1		8		●	●				○									
	公衆衛生学	1		8			●		●							○				
	言語聴覚療法概論	1		8			●	●						○						
	臨床検査・画像診断学	1		8			●								○					
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	2		15		●	●		●			○								
	チームアプローチ入門	1		15		●	●		●				○							
	保健医療福祉連携論	1		15		●	●		●										○	
基礎作業療法学	作業療法学概論	1		8	●		●	●			○									
	基礎作業学	1		8			●	●			○									
	基礎作業学演習Ⅰ	1		15			●	●							○					
	基礎作業学演習Ⅱ	1		15					●										○	
	トランスレーショナルセミナーⅠ	1		15	●	●	●	●			○									
	トランスレーショナルセミナーⅡ	1		15	●	●	●	●				○								
	トランスレーショナルセミナーⅢ	1		15	●	●	●	●	●								○			
	トランスレーショナルセミナーⅣ	1		15	●	●	●	●	●										○	
	作業療法研究法Ⅰ	1		8			●	●	●								○			
	作業療法研究法Ⅱ	2		30			●	●	●										○	
作業療法管理学	2		15	●	●	●	●	●											○	
作業療法評価学	作業療法評価学	1		8			●					○								
	身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	1		15			●					○								
	身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	1		15			●						○							
	精神障害作業療法評価学演習	1		15			●					○								
	高次脳機能障害作業療法評価学演習	1		15			●						○							
作業療法治療学	作業療法理論	2		15			●	●								○				
	身体障害作業療法Ⅰ	2		15			●									○				
	身体障害作業療法Ⅱ	2		15			●										○			
	身体障害作業療法演習	2		30			●		●								○			
	精神障害作業療法	2		15			●										○			
	精神障害作業療法演習	1		15			●		●								○			
	高齢期作業療法	1		8			●										○			
	高齢期作業療法演習	1		15			●		●									○		
	発達障害作業療法	1		8			●											○		
	高次脳機能障害作業療法	1		8			●												○	
	日常生活活動学	2		15			●												○	
	義肢装具学	2		15			●												○	
	福祉レクリエーション論	1		8	●		●													○
	先端作業療法	1		8			●	●	●											○
臨床実習	臨床実習Ⅰ（体験実習）	2		90h	●	●	●	●	●			○								
	臨床実習Ⅱ（評価実習）	5		225h	●	●	●	●	●										○	
	臨床実習Ⅲ（地域実習）	1		45h	●	●	●	●	●										○	
	臨床実習Ⅳ（総合実習）	9		405h	●	●	●	●	●										○	
	臨床実習Ⅴ（総合実習）	9		405h	●	●	●	●	●										○	
地域作業療法学	地域生活支援論	1		8	●		●		●			○								
	地域作業療法学	1		8		●	●		●										○	
	職業リハビリテーション論Ⅰ	1		8			●		●										○	
	職業リハビリテーション論Ⅱ	1		8		●	●		●											○
	生活環境論	1		8		●	●		●				○							
	福祉住環境論	1		8	●		●		●											○
特別演習	作業療法学総合演習Ⅰ	1		15			●	●	●										○	
	作業療法学総合演習Ⅱ	1		15			●	●	●										○	

卒業要件単位数 129単位以上

仙台青葉学院大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 カリキュラム・ツリー

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	言語・情報系	日本語表現法 英語Ⅰ 情報処理Ⅰ	英語Ⅱ 情報処理Ⅱ	ICT活用技術(選)				英語Ⅲ(選)	
	人文科学系	哲学 人間関係論	心理学 宗教と民族(選)	教育心理学		生命倫理学			
	社会科学系		法学入門 日本国憲法(選) 経済と政策 社会学(選) 社会保障論(選)		教育学概論				
	自然科学系	物理学 生物学 健康スポーツⅠ(選)		統計学入門	自然環境と災害 健康スポーツⅡ(選)				
専門基礎科目	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ 解剖学演習 運動学総論	解剖学Ⅱ 生理学Ⅰ 運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 人間発達学 解剖学実習	生理学Ⅱ 運動学実習	機能解剖学実習 臨床運動学 生理学実習				
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	救急救命学	栄養学	薬理学 内科学 整形外科学 精神医学	病理学 小児科学 神経学 臨床心理学 言語聴覚療法概論	老年学 公衆衛生学 臨床検査・画像診断学			
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念		リハビリテーション概論		チームアプローチ入門			保健医療福祉連携論	

専 門 科 目	基礎理学療法学	理学療法学概論 トランスレーショナルセミナーⅠ	トランスレーショナルセミナーⅡ		トランスレーショナルセミナーⅢ		理学療法研究法Ⅰ トランスレーショナルセミナーⅣ(選) 理学療法研究法Ⅱ(選)
	理学療法管理学						理学療法管理学
	理学療法評価学		理学療法評価学 基礎理学療法評価学実習	運動器障害理学療法評価学実習	神経障害理学療法評価学実習	内部障害理学療法評価学演習 理学療法評価学総合実習	
	理学療法治療学		物理療法学 日常生活活動学	物理療法学演習 日常生活活動学実習	運動器障害理学療法学 神経障害理学療法学 内部障害理学療法学 小児理学療法学 義肢装具学	運動器障害理学療法学演習 神経障害理学療法学演習 高次脳機能障害学 内部障害理学療法学演習 神経筋疾患理学療法学 義肢装具学演習	予防理学療法学 スポーツ理学療法(選) 疼痛理学療法(選) 先端理学療法(選)
	地域理学療法学				地域理学療法学	地域理学療法学演習	生活環境論
	特別演習					理学療法学総合演習Ⅰ	理学療法学総合演習Ⅱ
	臨床実習	臨床実習Ⅰ(体験実習)				臨床実習Ⅱ(評価実習) 地域リハビリテーション実習	臨床実習Ⅲ(総合実習) 臨床実習Ⅳ(総合実習)

(選) …選択科目

仙台青葉学院大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 カリキュラム・ツリー

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	言語・情報系	日本語表現法 英語Ⅰ 情報処理Ⅰ	英語Ⅱ 情報処理Ⅱ	ICT活用技術(選)				英語Ⅲ(選)	
	人文科学系	哲学 人間関係論	心理学 宗教と民族(選)	教育心理学		生命倫理学			
	社会科学系		法学入門 日本国憲法(選) 経済と政策 社会学(選) 社会保障論(選)		教育学概論				
	自然科学系	物理学 生物学 健康スポーツⅠ(選)		統計学入門	自然環境と災害 健康スポーツⅡ(選)				
専門基礎科目	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ 解剖学演習 運動学総論	解剖学Ⅱ 生理学Ⅰ 運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 人間発達学 解剖学実習	生理学Ⅱ 運動学実習	機能解剖学実習 臨床運動学 生理学実習				
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	救急救命学	栄養学	薬理学 内科学 整形外科学 精神医学	病理学 小児科学 神経学 精神医学演習 臨床心理学 言語聴覚療法概論	老年学 公衆衛生学 臨床検査・画像診断学			
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念		リハビリテーション概論		チームアプローチ入門			保健医療福祉連携論	

専
門
科
目

基礎作業療法学	作業療法学概論 トランスレショナルセミナーⅠ	基礎作業学	トランスレショナルセミナーⅡ		基礎作業学演習Ⅰ トランスレショナルセミナーⅢ	作業療法研究法Ⅰ	基礎作業学演習Ⅱ(選) トランスレショナルセミナーⅣ(選) 作業療法研究法Ⅱ(選)	
作業療法管理学							作業療法管理学	
作業療法評価学			作業療法評価学 身体障害作業療法評価学演習Ⅰ 精神障害作業療法評価学演習	身体障害作業療法評価学演習Ⅱ 高次脳機能障害作業療法評価学演習				
作業療法治療学					作業療法理論 身体障害作業療法Ⅰ 精神障害作業療法 高齢期作業療法 発達障害作業療法 日常生活活動学 義肢装具学 身体障害作業療法学演習	身体障害作業療法Ⅱ 精神障害作業療法学演習 高齢期作業療法学演習 高次脳機能障害作業療法学	福祉レクリエーション論(選)	先端作業療法(選)
地域作業療法学		地域生活支援論		生活環境論	地域作業療法学	職業リハビリテーション論Ⅰ	福祉住環境論(選)	職業リハビリテーション論Ⅱ(選)
特別演習						作業療法学総合演習Ⅰ		作業療法学総合演習Ⅱ
臨床実習	臨床実習Ⅰ(体験実習)				臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(地域実習)		臨床実習Ⅳ(総合実習) 臨床実習Ⅴ(総合実習)	

(選) …選択科目

2024年度 リハビリテーション学部 理学療法学専攻1年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月	31	1	2	3	入学式	4	オリテ
	7	8	健康診断	9	オリテ	10	オリテ
	14	15	①	16	①	17	①
	21	22	②	23	B型肝炎ワクチン接種1回目	24	②
	28	29	昭和の日	30		1	2
5月	5	こどもの日	6	振替休日	7	③	8
	12		13	③	14	④	15
	19		20	④	21	⑤	22
	26		27	⑤	28	⑥	29
6月	2		3	⑥	4	⑦	5
	9		10	⑦	11	⑧	12
	16		17	⑧	18	⑨	19
	23		24	⑨	25	⑩	26
7月	30		1	⑩	2	⑪	3
	7		8	⑪	9	⑫	10
	14		15	海の日	16	⑬	17
	21		22	⑬⑭	23	⑭	24
	28		29	⑭⑮	30	⑮	31
8月	4		5		6		7
	11	山の日	12	振替休日	13		14
	18		19	定期試験	20	定期試験	21
	25		26		27	結果発表	28
9月	1		2	再試験	3	再試験	4
	8		9		10		11
	15		16	敬老の日	17		18
	22	秋分の日	23	振替休日	24	臨床実習 I	25
	29		30	-			

2024年度 リハビリテーション学部 理学療法学専攻1年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土	
10月	29	30	1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	スポーツの日	15 ①	16 ①	17 B型肝炎ワクチン接種3回目	18 ①	19
	20	21	①	22 ②	23 ②	24 ②	25 ②	26
	27	28	②	29 ③	30 ③	31 ③	1 ③	2
11月	3	文化の日	4 振替休日	5 ④	6 ④	7 ④	8 ④	9
	10		11 ③	12 ⑤	13 ⑤	14 ⑤	15 ⑤	16
	17		18 ④	19 ⑥	20 ⑥	21 ⑥	22 ⑥	23 勤労感謝の日
	24		25 ⑤	26 ⑦	27 ⑦	28 ⑦	29 ⑦	30
12月	1	2	⑥	3 ⑧	4 ⑧	5 ⑧	6 ⑧	7
	8	9	⑦	10 ⑨	11 ⑨	12 ⑨	13 ⑨	14
	15	16	⑧⑨	17 ⑩	18 ⑩	19 ⑩	20 ⑩	21
	22	23	⑩⑪	24 ⑪	25 ⑪	26 ⑪	27 ⑪	28
	29	30		31	1 元旦	2	3	4
1月	5	6	7 ⑫	8 ⑫	9 ⑫	10 ⑫	11	
	12	13	成人の日	14 ⑬	15 ⑬	16 ⑬	17 ⑬	18
	19	20	⑫⑬	21 ⑭⑮	22 ⑭⑮	23 ⑭⑮	24 ⑭⑮	25
	26	27	⑭⑮	28	29	30	31	1
2月	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11 建国記念の日	12 定期試験	13 定期試験	14 定期試験	15	
	16	17	定期試験	18 定期試験	19 定期試験	20 定期試験予備日	21	22
	23	天皇誕生日	24 振替休日	25 結果発表	26 (補講)	27 (補講)	28 (補講)	1
3月	2	3	再試験	4 再試験	5 再試験	6 再試験	7 再試験	8
	9	10		11	12	13	14	15
	16	17		18 卒業式	19	20 春分の日	21	22
	23	24		25	26	27	28	29
	30	31						

2024年度 リハビリテーション学部 作業療法学専攻1年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月	31	1	2	3	入学式	4	オリテ
	7	8	健康診断	9	オリテ	10	オリテ
	14	15	①	16	①	17	①
	21	22	②	23	B型肝炎ワクチン接種1回目	24	②
	28	29	昭和の日	30		1	2
5月	5	こどもの日	6	振替休日	7	③	8
	12		13	③	14	④	15
	19		20	④	21	⑤	22
	26		27	⑤	28	⑥	29
6月	2		3	⑥	4	⑦	5
	9		10	⑦	11	⑧	12
	16		17	⑧	18	⑨	19
	23		24	⑨	25	⑩	26
7月	30		1	⑩	2	⑪	3
	7		8	⑪	9	⑫	10
	14		15	海の日	16	⑬	17
	21		22	⑬⑭	23	⑭	24
	28		29	⑭⑮	30	⑮	31
8月	4		5		6		7
	11	山の日	12	振替休日	13		14
	18		19	定期試験	20	定期試験	21
	25		26		27	結果発表	28
9月	1		2	再試験	3	再試験	4
	8		9		10		11
	15		16	敬老の日	17		18
	22	秋分の日	23	振替休日	24	臨床実習 I	25
	29		30	-			

2024年度 リハビリテーション学部 作業療法学専攻1年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土						
10月	29	30	臨床実習 I 1	臨床実習 I 2	臨床実習 I 3	臨床実習 I 4	臨床実習 I 5						
	6	7	8	9	10	11	12						
	13	14	スポーツの日	①	①	B型肝炎ワクチン接種3回目	①						
	20	21	①	②	②	②	②						
	27	28	②	③	③	③	③						
11月	3	文化の日	4	振替休日	5	④	6	④	7	④	8	④	9
	10	11	③	12	⑤	13	⑤	14	⑤	15	⑤	16	
	17	18	④	19	⑥	20	⑥	21	⑥	22	⑥	23	勤労感謝の日
	24	25	⑤	26	⑦	27	⑦	28	⑦	29	⑦	30	
12月	1	2	⑥	3	⑧	4	⑧	5	⑧	6	⑧	7	
	8	9	⑦	10	⑨	11	⑨	12	⑨	13	⑨	14	
	15	16	⑧⑨	17	⑩	18	⑩	19	⑩	20	⑩	21	
	22	23	⑩⑪	24	⑪	25	⑪	26	⑪	27	⑪	28	
	29	30	31	1	元旦	2	3	4					
1月	5	6	7	⑫	8	⑫	9	⑫	10	⑫	11		
	12	13	成人の日	14	⑬	15	⑬	16	⑬	17	⑬	18	
	19	20	⑭⑮	21	⑭⑮	22	⑭⑮	23	⑭⑮	24	⑭⑮	25	
	26	27	⑭⑮	28	29	30	31	1					
2月	2	3	4	5	6	7	8						
	9	10	11	建国記念の日	12	定期試験	13	定期試験	14	定期試験	15		
	16	17	定期試験	18	定期試験	19	定期試験	20	定期試験予備日	21	22		
	23	天皇誕生日	24	振替休日	25	結果発表	26	(補講)	27	(補講)	28	(補講)	1
3月	2	3	再試験	4	再試験	5	再試験	6	再試験	7	再試験	8	
	9	10	11	12	13	14	15						
	16	17	18	卒業式	19	20	春分の日	21	22				
	23	24	25	26	27	28	29						
	30	31											

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa01			
	●								
科目名	日本語表現法				単位認定者	大泉 浩一		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	医療従事者は対人援助を行う仕事であり、コミュニケーション能力が求められる。書き言葉と話し言葉を中心に日本語運用の基本を学び、自らを表現し、相手に正しく伝える言語表現の基礎能力を養う。また、大学生活の基礎となるレポート・小論文の作成、学術活動で活かされる読解、文章要約、推敲を実践形式で学修することで、日本語表現の実践力を身につける。								
到達目標	◇ 具体的な例を挙げて、自分の考えを他者に明確に伝える文章が作成できるようになること。 ◇ 初対面の相手に対しても、情報や自分の考えを分かりやすく話せるようになること。								
学修者への期待等	国語や作文に自信がない人も、口頭で説明するのが苦手な人もご心配なく。「習うより慣れろ」で少しずつ力をつけられるよう授業を進めますので、毎回の課題に全力で取り組んでください。								
回	授業計画				準備学修				
1	授業ガイダンスと作文練習				高校までに習った作文・小論文の書き方を確認してくる。(約1時間)				
2	手順を説明する(書く・話す)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
3	情報を説明する(書く・話す)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
4	経験を報告する(書く・話す)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
5	経験に基づいて考える(書く・話す)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
6	伝える内容を工夫する(書く・話す)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
7	自分の考えをまとめる(書く・話す)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
8	要約する(読む・書く)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
9	コミュニティとコミュニケーション(考える・書く)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
10	他者理解とコミュニケーション(考える・書く)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
11	想像力とコミュニケーション(考える・書く)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
12	現代社会とコミュニケーション(考える・書く)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
13	自分の未来とコミュニケーション(考える・書く)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
14	表現・表記とコミュニケーション(考える・書く)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
15	まとめの課題(考える・書く)				前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。(約1時間)				
教科書	なし。								
参考文献	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』(2018年/講談社現代新書)								
備考	1学年を2クラスに分けて実施します。毎回作文を書いていただき、チェックして次回に返却します。遅刻・私語等には厳しく対応し、出席不良の場合は評価対象外とします。								
※以下は該当者のみ記載する。									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)									

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa02				
	●									
科目名	英語 I				単位認定者	吉野 千乃		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間		%	
				授業形態	講義	授業回数	8 回		%	
授業の概要	<p>グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。</p> <p>英語 I では、これまでの学校教育で学んだ内容を基に、日常生活における場面で使用する語彙や基本表現に触れ、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、医療従事者として必要な語彙を学修する。</p>									
到達目標	<p>日常の中で接する様々な話題を通じて英語表現を学び、実際に使えるようになる。</p> <p>大学生として身近な事柄が英語で表現できるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>授業の際は事前に新出語彙を確認しておくこと。また、授業内で行うペアワークには積極的な姿勢で臨むこと。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	Orientation : 予習と復習、授業の進め方について				シラバスをよく読み、テキストの内容を確認しておくこと(約30分)。					
2	MODULE 1 : Introductions Unit 1				【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
3	MODULE 1 : Introductions Unit 2 ペアワーク				【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
4	MODULE 2 : Fashion Unit 1				【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
5	MODULE 2 : Fashion Unit 2 ペアワーク				【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
6	MODULE 3 : Food Unit 1				【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
7	MODULE 3 : Food Unit 2 ペアワーク				【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
8	Review MODULE 1-3									
教科書	Thompson, C., & Woolstencroft, T. (2024). <i>Framework English A (CEFR A1-A2)</i> 「CEFRの評価基準で学ぶ4技能 A (CEFR A1-A2)」 KINSEIDO									
参考文献	授業内、またはLMSで随時配布する。									
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa03				
●										
科目名	英語Ⅱ				単位認定者	スミス アンソニー		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	10 %
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。</p> <p>英語Ⅱでは、英語Ⅰで学んだ内容を基に、グループワークやディスカッション等を行い、実践的な授業を行う。自分の意志や意見を英語で表現し、相手の意図を汲み取ることができることを目標とする。また、医療現場で頻繁に用いられる英語の基本表現についても学修する。</p>									
到達目標	医療系を専攻する学生としてMedical Englishを通して英語の基礎力を培いながら、4技能の内、特にコミュニケーション力の強化を到達目標とする。									
学修者への期待等	演習形式で相当量の問題をこなしていくので、しっかり予習をして授業に臨むこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	受診の予約				8ページから12ページ 概ね40分					
2	受診				13ページから19ページ 概ね40分					
3	問診・医師による診察				22ページから27ページ 概ね40分					
4	薬の服用				28ページから32ページ 概ね40分					
5	再受診・検査				33ページから38ページ 概ね40分					
6	胃の検査				39ページから45ページ 概ね40分					
7	検査結果・入院				46ページから49ページ 概ね40分					
8	術前・術後				50ページから53ページ 概ね40分					
9	待合室での会話				54ページから57ページ 概ね40分					
10	清拭				58ページから61ページ 概ね40分					
11	リハビリ				62ページから65ページ 概ね40分					
12	歯科治療				66ページから69ページ 概ね40分					
13	回復・退院許可・退院後の生活指導				70ページから74ページ 概ね40分					
14	退院				75ページから79ページ 概ね40分					
15	ディスカッション、及びプレゼンテーション									
教科書	『医療英語入門 ― 医療の現場から日常のシーンまで』 松柏社									
参考文献	授業内で指示									
備考	1学年を2クラスに分けて実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa05				
	●									
科目名	情報処理 I				単位認定者	杉崎 新一		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	必修	1年		授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	<p>情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。</p> <p>情報処理 I では、情報リテラシーを中心に、情報社会で適切な判断をするために必要な情報社会・情報科学に関する基礎知識を修得する。また、大学生活で必要なレポートの作成やプレゼンテーション資料の作成に取り組み、効果的な資料作成の技術を身につける。</p>									
到達目標	<p>パソコンの基本操作を修得し、業務でWord・Excel・PowerPointが効率的に使用できることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆Word:書式設定や印刷設定を利用した基本的な文書・表・図形・写真などを含む文書が作成できる。 ◆Excel:書式設定をして表を整えることができ、適切な計算式や関数、グラフを作成できる。 ◆PowerPoint:プレゼンテーションを理解し、訴求力あるスライド作成とスライドショー実施ができる。 									
学修者への期待等	<p>パソコンの基本操作から行う。操作が苦手な者は、これを機に操作ができるようにすること。</p> <p>操作ができる者であっても自己流の操作を行うことが多いので、初心に戻り取り組み、自分にとって不足しているスキルはより向上するよう学修すること。授業を休むと操作がわからなくなり、次回以降の授業にも影響するため注意すること。</p> <p>操作がわからない部分はそのままにせず、演習中に巡回をするので質問して確認すること。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	基礎知識:PCの操作・Windowsの基本操作				<p>【事前】</p> <p>マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は、タイピングの練習をして技術を向上させること。(30分程度)</p> <p>【事後】</p> <p>Word・Excelは、はじめは基礎内容から入り、段階的に応用内容に進んでいくため、各回の内容をしっかりと身につけ、次の授業へ臨むこと。授業内に完成しなかった作成物は、次回までに完成しておくこと。</p> <p>これまでの経験によってパソコンのスキル(技能)は、各人で異なるため、自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作か身につけていないと感じる場合は、授業中に作成したものを繰り返し操作して復習すること。(各自のスキルにより30分～1時間程度)</p>					
2	情報保護:モラルとセキュリティに関する知識 Word:文書の書式設定・印刷設定									
3	Word:入力方法・文書入力・ページ設定									
4	Word:書式設定									
5	Word:図・表を取り入れた文書の作成									
6	Word:課題作成(これまでに学んだ内容を活用)									
7	Excel:入力と編集方法・数式や関数・書式設定・表示形式									
8	Excel:相対参照と絶対参照・表の編集・印刷設定									
9	Excel:グラフ作成									
10	Excel:基本的な関数(MAX・MIN・COUNT・COUNTAなど)									
11	Excel:基本的な関数(IF・AND・ORなど)・表示形式・日付関連の関数									
12	Excel:課題作成(これまでに学んだ内容を活用)									
13	PowerPoint:スライドの作成・オブジェクトの挿入									
14	PowerPoint:アニメーションの設定・スライドショーの実施									
15	PowerPoint:課題作成(これまでに学んだ内容を活用)									
教科書	『30時間アカデミック Office2021 Windows11対応』 実教出版									
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。									
備考	<p>すべての授業回で実技を行うため、各自のパソコンを持参して授業に臨むこと。</p> <p>授業内課題は授業時に指示する提出物で評価し、適宜フィードバックする。</p> <p>課題は次回講義の際に総じて解説を行うこともある。</p> <p>授業内容や順序は、クラス全体の操作の進捗、使用教室により調整する場合がある。</p> <p>1学年を2クラスに分けて実施する。</p>									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa06				
	●									
科目名	情報処理Ⅱ				単位認定者	佐々 順子		試験（筆記）	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	課題	40 %
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			%
授業の概要	<p>情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。</p> <p>情報処理Ⅱでは、情報処理Ⅰで学んだ内容を基に、大学生活や卒業後も学び続けるために必要となるデータの収集や処理を正確に行う能力を身につける。さらに、グループワーク等を通じて情報収集、分析、発表、評価を行うことにより、プレゼンテーション技術を高めていく。</p>									
到達目標	<p>①Word、Excelを効果的に活用してテーマに即した資料やレポートを作成する。</p> <p>②グループワークを通してメンバーと協調しながらテーマに即したプレゼンテーションを立案する。</p> <p>③上記をもとに、必要なデータの収集、編集を適切に行い、効果的なプレゼンテーションを実践するためのスキルを獲得する。</p>									
学修者への期待等	<p>受講者間での相談やアドバイス等、お互いのスキルアップのための協力を大切にして、知識・技能の向上に意欲的に臨んでいただきたい。</p> <p>欠席や遅刻をせず、1回1回の授業に積極性を持って「参加」すること。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	データ収集、ダウンロードデータの扱い、LMSへのアップロード等基本事項の確認									
2	Word：基本操作の復習、書式設定詳細、ビジネス文書の基本事項確認①									
3	Word：基本操作の復習、書式設定詳細、ビジネス文書の基本事項確認②				○事前学修					
4	Excel：基本操作の復習、数式・関数、比率と構成比、データからのグラフ作成①				・マウス操作、タッチパッド操作、キー操作、タイピングに自信がない者は、継続的な自主練習を行う。特に入力操作が苦手な場合はタイピング（ローマ字入力）、マウス操作の練習を行って授業に臨む（30分程度）。					
5	Excel：基本操作の復習、数式・関数、比率と構成比、データからのグラフ作成②									
6	情報検索、ダウンロードデータの引用ルール、データの加工（Excel、Wordへの落とし込み）									
7	PowerPointと他のアプリケーションソフトの連携				次回授業までにテキスト1章p5～35精読 まとめシート作成					
8	<グループワーク>テーマに即した情報検索				次回授業までにテキスト2章p37～63精読 まとめシート作成					
9	<グループワーク>テーマに即したプレゼンテーションの立案（指定分野でのグループ内テーマ決定、役割分担、作業計画）									
10	<グループワーク>プレゼンテーションの立案書作成、テーマに即した情報検索と加工				次回授業までにテキスト4章p65～117精読 まとめシート作成					
11	<グループワーク>（立案書の修正、）スライド作成作業				スライド完成後、テキスト5章、6章を参考に発表手法についてグループ内で検討					
12	<グループワーク>スライド作成作業、終了後立案書提出（LNMS）									
13	グループごとのプレゼンテーション・講評会①、終了後報告書提出（LMS）									
14	グループごとのプレゼンテーション・講評会②、終了後報告書提出（LMS）									
15	グループごとのプレゼンテーション・講評会③、終了後報告書提出（LMS）									
教科書	『よくわかる 改訂2版 自信がつくプレゼンテーション』青山昌裕 FOM出版									
参考文献	配付資料									
備考	<p>1学年を2クラスに分けて実施する。</p> <p>アプリ操作性の向上と、授業課題の保存・移動のため、授業開始時までに各自次のものを準備してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・USBメモリー（他の科目と共用可 ノートPCの仕様によりUSBポートがない場合はコネクタも必要） ・マウス <p>事前に充電、Windowsの更新を済ませておくこと。（授業中に充電を行わない。）</p>									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb01				
	●			●						
科目名	哲学				単位認定者	池田 準		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	14 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間		受講態度	16 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			%
授業の概要	哲学とは、真理を探究し、物事の本質を追究する学問である。代表的な哲学者等の思想を学び、深く自身の考えを巡らせ、人間とは何かを思索する。哲学の歴史や流れを学びながら、人間は何のために生きるのか、幸福とは何か、自由とは何か、愛とは何か、正義とは何か等の普遍的な問いについて深慮する。個の内面を徹底的に洞察するという哲学的な思考法を学び、深く考えることの価値を知ること、自身の人生をより深みのあるものにしていく。									
到達目標	1. 哲学の基本的な考え方を説明できる。 2. 哲学の基本的な考え方をを用いて日常生活に潜む哲学的な問題について、自己の考えを深める。									
学修者への期待等	各回の授業に設定された「問い」に対する自分自身の考えをあらかじめメモしておき、あとで授業で学んだ哲学的な考え方と比較できるようにしておきましょう。									
回	授業計画				準備学修					
1	医療と哲学：何のために哲学を学ぶのか				医療の技術や知識だけでは解決できない医療現場で生じる問題を挙げてみましょう。(概ね1時間)					
2	自我と身体：デカルトの心身二元論とメルロ・ポンティの身体論、病者・障がい者にとっての心と体				身体の中のどの部位が欠けたら「自分」ではなくなってしまうのか、を考えてみましょう。(概ね1時間)					
3	自我と心：カントの自我論とヘーゲルの相互承認論、記憶と自己意識、認知症患者の自我				記憶がなくなったら「自分」は消えてしまうのか、を考えてみましょう。(概ね1時間)					
4	自我と他者：フッサールの間主観性とレヴィナスの他者論、ケアにおける応答関係				ケアの対象を「人間として尊重する」とはどういうことなのか、を考えてみましょう。(概ね1時間)					
5	他者理解と共感：ヒュームの懐疑主義とモラル・センス学派の共感概念、患者への共感				他人の考えや感情を本当に理解することはできるのか、を考えてみましょう。(概ね1時間)					
6	社会と幸福：古代ギリシアのエウダイモニズムと近代の功利主義、QOLの基盤としての幸福観				自分にとっての幸福とは何か、を考えてみましょう。(概ね1時間)					
7	社会と自由：運命論、因果的決定論、自由意志論と責任概念				何らかの不自由を抱える病者・障がい者を例に自由とは何かを考えてみましょう。(概ね1時間)					
8	死と実存：ハイデガーの存在論、死の実存的意味とよく生きること(well-being)				身近な人の死をどう受けとめたら良いのか、生きる意味とは何かを考えてみましょう。(概ね1時間)					
教科書	教科書は特に使用しません。授業で毎回、資料を配付します。									
参考文献	各回の授業でテーマに関連する文献を紹介します。									
備考	PT・OT合同授業 授業内課題、試験については授業内あるいはLMSでフィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb03				
	●	●		●						
科目名	心理学				単位認定者	真覚 健		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			%
授業の概要	心理学とは、人間の心と行動を学び、科学的に検証する学問である。心理学の基礎知識である「感覚・知覚、学習・記憶、感情・動機・欲求、性格、社会・集団」を学び、人間の行動や心理過程の理解に必要な基礎的知識を身につける。また、社会に対する心理学の役割、心理学の対象となる日常生活上の問題やこころの健康にも触れて学修する。									
到達目標	1：心理学の基礎的知識について説明できる。 2：心理学的な見方や考え方を理解し、説明できる。 3：社会に対する心理学の役割について説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめ配布するので事前に熟読すること。 日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	心理学とは（心理学と自然科学）				心を科学的に扱うための工夫、心理学の対象について調べておくこと（30分程度）					
2	感覚・知覚・認知				感覚的順応、恒常性、対比と同化について調べておくこと（30分程度）					
3	学習・記憶				随伴性学習、短期記憶・長期記憶の特徴について調べておくこと（30分程度）					
4	感情				基本的感情、表情について調べておくこと（30分程度）					
5	動機・欲求				内発的動機づけ、適応機制について調べておくこと（30分程度）					
6	性格				類型論と特性論について調べておくこと（30分程度）					
7	社会・集団				集団の種類、集団規範について調べておくこと（30分程度）					
8	心理学の対象となる日常生活上の問題				心理学の近接領域について調べておくこと（30分程度）					
教科書	資料を配布する。									
参考文献	『新心理学ライブラリ 1 心理学への招待 改訂版』サイエンス社									
備考	PT・OT合同授業 毎回小レポートを実施し、次回の授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb05				
	●									
科目名	宗教と民族				単位認定者	徳田 幸雄		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
	O T	選択	1年			授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			%
授業の概要	国際社会の中で、他者を理解するためには、宗教や民族、思想、歴史、文化への理解が重要である。世界の主要宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教）を取り上げ、思想と歴史に触れることで、世界に対する自己見解を持ちながらも、他者の思想等を尊重できる姿勢を学ぶ。また、地域紛争の背景となる民族問題、紛争により起こる難民問題等を取り上げ、現在起きている国際的な問題と日本の関係についても学び、幅広い視野を持てるよう学修する。									
到達目標	国際化時代に相応しい他者理解の素養を身につけるとともに、自己理解を深める。									
学修者への期待等	日頃から宗教が絡む国際情勢や時事問題に関心を持ち、自身で情報収集するなどして主体的な取り組みをしたうえで授業に臨むことが望ましい。									
回	授業計画				準備学修					
1	イスラエルの宗教				パレスチナ問題について調べる（30分）					
2	ユダヤ教：「遵守する」宗教				モーセについて調べる（30分）					
3	キリスト教：「信じる・愛する」宗教				パウロについて調べる（30分）					
4	イスラーム：「服従する」宗教				ムハンマドについて調べる（30分）					
5	インドの諸宗教：「祭る」宗教				カースト制について調べる（30分）					
6	仏教：「悟る」宗教				ブッダについて調べる（30分）					
7	日本仏教（13宗）				大乘仏教について調べる（30分）					
8	神道：「清める」宗教				日本神話について調べる（30分）					
教科書	使用しない									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業 授業内課題はチェック・テストで評価し、次回の授業冒頭にてフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb06				
	●	●		●						
科目名	人間関係論				単位認定者	真覚 健		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			%
授業の概要	日々の生活において、他者と良好な関係を築くことは重要なことであり、その場面は家庭、学校、職場、地域等と多岐に渡り、他者（対象者）によっても、築くべき人間関係は大きく異なる。他者との良好な関係を築くために必要なことは何か、対人認知のプロセスやメカニズム、対人関係の理論と技法を学修し、コミュニケーション能力の向上を図る。									
到達目標	1：医療業務における人間関係の機能について説明できる。 2：対人認知のプロセスやメカニズムについて説明できる。 3：医療職者として必要なコミュニケーション能力を理解し、説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめ配布するので事前に熟読すること。 学んだ知識を活かしたコミュニケーションができるよう実践することを期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	臨床における人間関係				患者と良好な人間関係を形成することの意義について調べておくこと（30分程度）					
2	対人認知①（対人印象の形成）				暗黙のパートナーリティ理論について調べておくこと（30分程度）					
3	対人認知②（対人魅力にかかわる要因）				自己開示について調べておくこと（30分程度）					
4	交流分析の理解				5つの自我状態について調べておくこと（30分程度）					
5	コミュニケーションプロセスとミスコミュニケーション				コミュニケーションプロセスについて調べておくこと（30分程度）					
6	非言語コミュニケーションの理解				非言語コミュニケーションについて調べておくこと（30分程度）					
7	コミュニケーションのスキル①（話を聴くスキル）				傾聴について調べておくこと（30分程度）					
8	コミュニケーションのスキル②（アサーティブ・コミュニケーション）				アサーティブ・コミュニケーションについて調べておくこと（30分程度）					
教科書	資料を配布する。									
参考文献	『ナースのための臨床社会心理学：看護場面の人間関係のすべて』 北大路書房									
備考	PT・OT合同授業 毎回小レポートを実施し、次回の授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc01				
	●									
科目名	法学入門				単位認定者	鈴木 一樹		授業内課題等	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間		%	
				授業形態	講義	授業回数	8 回		%	
授業の概要	社会生活上に必要な知識として、「日本国憲法」「民法」「刑法」を取り上げ、「法」の基礎を学修する。とりわけ最も身近な法律のひとつである「民法」を中心に学び、日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げ、法の観点から問題点、解決方法、回避方法を検討する。具体的な事例を基に、法と照らし合わせて学修することで、学修者自身が適切な選択・判断ができることを目指す。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	法律の意義と学ぶ意味									
2	憲法（1）基本的人権				前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）					
3	憲法（2）統治機構				前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）					
4	民法（1）総則、物権				前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）					
5	民法（2）債権				前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）					
6	民法（3）親族・相続				前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）					
7	刑法（1）総論				前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）					
8	刑法（2）各論				前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）					
教科書	特に指定しない。									
参考文献	必要に応じて講義内で紹介する。									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。講義内容は、進捗に応じて変更する場合がある。各回の授業内課題については、その回で学んだことや印象に残ったことを記述したものとする。課題については、講義内でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc02				
	●									
科目名	日本国憲法				単位認定者	高橋 勇人		試験 (レポート)	55 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
	O T	選択	1年			授業時間数	15 時間		受講態度	15 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			%
授業の概要	日本国憲法の概要、基本理念・原理について学ぶ。国民の権利及び義務、幸福追求権、平和主義、生存権の内容に触れ、日常生活との憲法との関わりを学ぶ。また、身近で起こりえる問題について、日本国憲法を基に解釈し、自ら活用できることを目指す。医療従事者、教育者として必要な考え方も日本国憲法から学び、修得する。									
到達目標	憲法の基本的な用語や概念を正しく理解し、説明できる。修得した知識をもとに憲法と医療・福祉が交錯する問題について自分で考え、意見を述べることができる。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思われるので、復習を中心に組み組みつつ、授業前に教科書を必ず一読すること。日頃から新聞やニュースに目を通すのが好ましい。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンスと導入—なぜ憲法を学ぶのか—				中学校や高校で学習した憲法の知識を復習し、教科書 i 頁～vii 頁を読んでおくこと（概ね1時間）。					
2	生存権				事前に教科書113頁-124頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。					
3	教育権・経済的自由権				事前に教科書125頁-134頁、103頁-112頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。					
4	信教の自由				事前に教科書70頁-80頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。					
5	表現の自由				事前に教科書81頁-102頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。					
6	幸福追求権①—子どもの人権・プライバシー権—				事前に教科書3頁-12頁、25頁-34頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。					
7	幸福追求権②—自己決定権—				事前に教科書35頁-46頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。					
8	(まとめ) 「人権」とは何か				これまで学習した内容を復習しておくこと（概ね1時間）。					
教科書	『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』、初宿正典ほか、有斐閣									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
備考	PT・OT合同授業、授業内課題については、次回の授業の冒頭で解説する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc03				
	●									
科目名	経済と政策				単位認定者	岩 淵 修		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間			%
				授業形態	講義	授業回数	8 回			%
授業の概要	<p>一国の経済全体の動きのメカニズムを分析するマクロ経済学の基本的な概念や考え方を学び、経済を見る視点の基礎的な素養を身につける。財政政策、金融政策、産業政策、社会保障制度改革等をキーワードに日本経済の現状や課題を理解し、さらに、世界全体が直面するエネルギー・資源・環境問題や国際社会の動向についても取り上げ、日本経済の展望について考える。</p>									
到達目標	<p>マクロ経済学とマクロ経済政策についての基本的知識を理解すること。その上で、日本経済の長期停滞、デフレ、人口減少、少子高齢化といった厳しい現実の下で、「政策」がどのような可能性を秘めているかを自分で考える。</p>									
学修者への期待等	<p>日常のニュースに関心を持ち、日本の戦後の経済史や時事問題、経済データに興味を持つこと。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	「経済」と「経済学」の関係、ストックとフローや国民所得概念				日本や世界各国の経済データを調べる。(概ね15分)					
2	ケインズ経済学の単純なモデルである45度線分析				経済学説上でのケインズについて調べる。(概ね15分)					
3	IS-LM分析モデルと経済政策の効果				基本的な財政政策と金融政策について調べる。(概ね15分)					
4	AD-AS分析モデルと物価				現在のデフレと失業率について調べる。(概ね15分)					
5	戦後日本経済史とバブル				バブル時代の日本の状況について調べる。(概ね15分)					
6	バブルの崩壊と日本の長期停滞				「失われた30年」の経済成長率とデフレについて調べる。(概ね15分)					
7	伝統的金融政策と異次元の金融政策				異次元の金融政策について調べる。(概ね15分)					
8	財政政策と日本の累積国債残高				現在の日本の財政状況を調べる。(概ね15分)					
教科書	なし									
参考文献	『ケインズ』伊東光晴 岩波新書 『マクロ経済学』斎藤誠その他 有斐閣									
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc05				
	●			●						
科目名	社会学				単位認定者	小野寺 修		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	選択	1年			授業時間数	15 時間			%
				授業形態	講義	授業回数	8 回			%
授業の概要	この科目は、社会学の理念・理論・全体構造といった基礎的な知識を学び、現代において多様化する社会的諸問題について考える。身近な問題として、ジェンダー、子どもの貧困、多様化する家族、難民、多文化、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）等をテーマに、幅広く学び、社会問題について、自ら考える力を養う。									
到達目標	社会とは何か、社会学の考え方を学ぶことで、社会的な視点から検討し、論理的に説明することができる。									
学修者への期待等	みなさんが普段暮らしている社会をじっくり見つめて、これまであたりまえに考えてきたことが果たしてあたりまえなのかを考えてみてください。社会は日々動いています。社会の現象や世の中の流れを注視してください。									
回	授業計画				準備学修					
1	社会とは何か（基礎理論・用語）				【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
2	共生とは何か				【事前】講義テーマの下調べ（概ね30分） 【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
3	多文化共生（地域社会とエスニシティ）				【事前】講義テーマの下調べ（概ね30分） 【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
4	マイノリティ（マイノリティとは誰のことか）				【事前】講義テーマの下調べ（概ね30分） 【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
5	ジェンダー（男らしさ・女らしさ）				【事前】講義テーマの下調べ（概ね30分） 【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
6	家族（多様な家族像）				【事前】講義テーマの下調べ（概ね30分） 【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
7	社会調査（何を調べるのか）				【事前】講義テーマの下調べ（概ね30分） 【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
8	講義のまとめ				【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
教科書	特に指定しません。必要な教材はこちらで準備します。									
参考文献	『よくわかる社会学 第3版』宇都宮京子・西澤晃彦編著、ミネルヴァ書房 『大学生のための社会学入門』篠原清夫・栗田真樹編著、光洋書房 『社会学』奥井智之、東京大学出版会									
備考	PT・OT合同授業 ・受講者の理解度および授業の進捗によって、内容を変更することがあります。 ・課題に対する講評等は、授業内またはLMSにて、個別もしくは全体にフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc06				
	●			●						
科目名	社会保障論				単位認定者	青山 美智子		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	15 %
	O T	選択	1年			授業時間数	15 時間		受講態度	15 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			%
授業の概要	社会保障とは何か、社会保障制度を成り立たせている基本的な考え方を理解する。社会保障が誕生した歴史的背景、生存権を規定し国民の生活の保障を具体化した社会保障制度の内容を理解する。また、医療をとりまく環境や少子高齢社会で人口減少が進む我が国で、どのような問題が生じているのか、現実社会の変化に対応すべく、どのような制度改革やサービス改革が行われようとしているのか、身近な問題と制度を結びつけ基本的な知識を身につける。									
到達目標	社会保障制度の体系と概要を理解し説明できる。 統計データからわが国の社会的背景と社会保障制度の関係性を理解し説明できる。 社会生活の中での社会保障の役割について理解し説明できる。									
学修者への期待等	社会保障関連の統計データ、新聞、ニュースに対して、日頃から関心をもつことが望ましい。 社会変遷との関連性を理解し、社会保障制度を複眼的な考え方で理解することが望ましい。 私たちと社会保障とのつながりを理解し、これからの自らの実践に活かせることを期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	社会保障の理念、憲法第25条、社会保障制度の構成、わが国の人口構造と人口ピラミッド、少子高齢社会、平均寿命、出生率、一次資料の活用について				事後学修	本時のレジュメを読み込む。 当該単元の図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
2	【健康と公衆衛生】1.健康とは、2.公衆衛生とは、3.公衆衛生に関する行政組織、4.世界保健機関（WHO）				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
3	【医療を取り巻く環境】1.平均寿命と健康寿命、2.生活習慣と健康状況、3.国民の受療状況、4.感染症状況、5.死因状況、6.国民医療費の推移				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
4	【医療供給体制】1.医療法、2.医療法上の医療機関の分類と役割、3.二重登録制、4.医療従事者と関連法				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
5	【保健衛生】1.食品衛生、2.環境衛生、3.労働衛生、4.学校保健、5.母子保健、6.地域保健、7.精神保健				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
6	【社会保障 ①社会保険】1.医療保険制度、2.労働者災害補償保険制度、3.介護保険制度、4.年金保険制度				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
7	【社会保障 ②社会福祉】1.児童福祉、2.高齢者福祉、3.障害者福祉、4.母子・父子・寡婦福祉等、地域包括ケアシステム				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
8	【社会保障 ③公的扶助、④保健医療・公衆衛生】1.生活保護法、健康診断、感染症予防対策等、現物給付と現金給付、法定給付と付加給付、社会保障論の到達目標達成状況				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
教科書	毎時レジュメを配布する。									
参考文献	一次資料を確認しながら進める。文献は必要に応じて授業内で紹介する。									
備考	PT・OT合同授業 授業内容や順序は、単元の関連性により調整する場合がある。 小テストは適宜行う。小テストの解答・解説はLMSに掲載するので必ず確認すること。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd01				
	●		●	●						
科目名	物理学				単位認定者	本田 俊夫		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間		%	
				授業形態	講義	授業回数	8 回		%	
授業の概要	<p>人体の動きから人体内部の生命現象まで、物質が関与する現象はすべて物理学の原理に従っている。物理の基礎として力学、温度と熱、音と光、電気と磁力、原子と放射線について学修し、医療に携わる者として、人間生活と物理的事象との関わりを科学的に理解する。</p>									
到達目標	<p>日常生活や体とかかわる身近な物理的事象の基礎原理について理解し、それをわかりやすく説明し、応用することができる。医療にかかわる者として、物理学全般の基礎的な教養と知識を身につける。</p>									
学修者への期待等	<p>教科書に基づいて準備学修で指定された箇所を必ず予習してください。授業では人体、医療に近づけた内容で実施します。よく復習して理解を深めてください。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	「力のつり合い」力のはたらき・つり合い				第1章力のつり合いp.2～7を読んでおくこと。(概ね30分～1時間程度)					
2	「力のつり合い」剛体にはたらく力				授業後に復習し理解を深める。(おおむね30分程度)					
3	運動の表し方と運動の法則				第2章p.10～13、第3章p.18～23を読んでおくこと。(概ね30分～1時間程度)					
4	圧力				別途資料を配布する。復習をして理解を深めること。(概ね30分程度)					
5	熱とエネルギー				第7章熱とエネルギーp.50～55を読んでおくこと。(概ね30分～1時間程度)					
6	波の性質 音と光				第10章音p.78～83、第11章音p.87～89を読んでおくこと。(概ね30分～1時間程度)					
7	電磁気				第12章音p.94～97を読んでおくこと。(概ね30分～1時間程度)					
8	原子と放射線				第15章音p.118～123を読んでおくこと。(概ね30分～1時間程度)					
教科書	『基礎と演習 大学生の物理入門』高橋正雄著 共立出版									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd02				
	●		●	●						
科目名	生物学				単位認定者	石澤 公明		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	10 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間		受講態度 (毎回の授業内課題を含む)	30 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			%
授業の概要	生命現象、生命の尊厳、生物の多様性と、生命現象の普遍性を学ぶことにより、ヒトの存在への理解を深める。生物学の基礎として、生命現象・遺伝・細胞・発生・免疫・環境を学修し、医療に携わる者として、現在急速に解明されつつある生命現象や生命科学を科学的に理解する。									
到達目標	生命の尊厳を深く認識する社会人として、生物学の教養を深めるとともに、理学療法士・作業療法士に関連する専門・臨床科目の学習に必要な生物学の基礎知識を習得する。									
学修者への期待等	事前に配布する講義資料の予習を行なって講義に出席してほしい。質問があれば、講義中に発言するか、講義中に配布する用紙(ミニツツペーパー)に記入して下さい。教師との積極的なコミュニケーションを期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	生物とは？				配付する資料(生物とは?)の復習(概ね30分)					
2	細胞の構造及び細胞分裂				配布する資料(細胞の構造及び細胞分裂)の復習(概ね30分)					
3	生体膜の構造と機能				配布する資料(生体膜の構造と機能)の復習(概ね30分)					
4	生体のエネルギーと代謝				配布する資料(生体のエネルギーと代謝)の復習(概ね30分)					
5	環境応答と神経伝達				配布する資料(環境応答と神経伝達)の復習(概ね30分)					
6	免疫及び細胞分化				配布する資料(免疫及び細胞分化)の復習(概ね30分)					
7	遺伝				配布する資料(遺伝)の復習(概ね30分)					
8	遺伝情報の発現				配布する資料(遺伝情報の発現)の復習(概ね30分)					
教科書	毎回の講義資料									
参考文献	『サイエンスビュー 生物総合資料 四訂版』 実教出版									
備考	PT・OT合同授業 授業内課題(レポート)は、最初の講義で課題を提示します。紙媒体(A4レポート用紙一枚)で、期日内に提出して下さい。そのフィードバックは、最後の講義で行います。上記レポート課題とは別に、毎回講義で課題を出します。その解答及び講義内容についての質問を配布する用紙(ミニツツペーパー)に記入し、講義終了時に提出して下さい。その課題解答や質問のフィードバックは、次回以降の講義中に行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd05				
	●									
科目名	健康スポーツ I				単位認定者	菅原 一昭		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	選択	1年			授業時間数	15 時間			%
				授業形態	講義	授業回数	8 回			%
授業の概要	<p>健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動(スポーツ)を生活に取り入れることが重要である。</p> <p>健康スポーツ I では、健康を維持するために必要な食生活と運動(スポーツ)の重要性を学ぶ。生活習慣病と運動・食生活の関係、疾病と健康状態、体力に応じた運動方法を学ぶ。</p>									
到達目標	<p>日常の生活の中で、「運動」や「スポーツ」を習慣化することで、生涯にわたって健康の維持・増進に繋げて継続していくことの大切さを理解すること。</p>									
学修者への期待等	<p>日頃から体調管理に努め、欠席・遅刻、居眠りのないよう万全の態勢で授業に臨めることを期待します。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	生活習慣病と健康 I (生活習慣病・健康寿命・食事)				農林水産省・厚生労働省ホームページを事前に関連し、新しい食生活指針について学修すること(概ね30分)					
2	生活習慣病と健康 II (運動・喫煙・飲酒)				日常的に実施している健康法について自分の考えをまとめ発表する(概ね30分)					
3	スポーツの概念と歴史				スポーツの起源について事前に学修すること(概ね30分)					
4	文化としてのスポーツ				フェアプレーについて自分の考えをまとめること(概ね30分)					
5	体力の概念(行動体力・防衛体力)				行動体力、防衛体力について事前に学修すること(概ね30分)					
6	トレーニングの進め方(トレーニングの原理・原則種類)				運動を実施する上で、各自のウォーミングアップ方法を考えまとめ発表する(概ね30分)					
7	文部科学省(スポーツ庁)施策 主なスポーツ関係府省庁及び施策				スポーツ庁ホームページを事前に関連し、様々な施策について学修すること(概ね30分)					
8	総括、試験対策				第1回～第7回までのプリント持参。					
教科書	特になし									
参考文献	授業時に資料を配布する。									
備考	PT・OT合同授業。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa01				
	●		●							
科目名	解剖学 I				単位 認定者	大和田宏美		試験（筆記）	80 %	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の 方法	授業内課題 (小テスト)	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間			%
				授業形態	講義	授業回数	15 回			%
授業の概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり、医学の基礎となっている。身体内部の臓器は、骨格と密接な位置関係で配置されており、身体を切り開くことなく、体表から臓器の位置を知ることができる。本科目では、人体の構造と機能に係る基礎知識となる運動器系の骨・筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経を中心に学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 骨格系・筋系の役割を説明できるようになる。 骨格系では、骨の名称について説明できるようになる。 筋系では、筋の名称・筋の起始・停止、筋の作用を説明できるようになる。 末梢神経系では、各神経支配を理解し、どの筋がどの末梢神経によって支配されているかを説明できるようになる。 									
学修者への期待等	骨格系・筋系・末梢神経系を学び、人の体の動きについて理解を深めることで臨床に繋げることを期待する。解剖学を学ぶことは、自分の体を知ることにつながります。興味を持って学修してください。事前にLMSに講義資料を掲載しますので、予習として必ず講義資料を確認してください。									
回	授業計画				準備学修					
1	解剖学概論				「解剖学とは何か」、「人の命の尊さとは何か」を考えてくる。（予習時間概ね1時間程度）					
2	骨学1：上肢骨①鎖骨、肩甲骨				授業計画に該当する骨について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間概ね各1時間程度）					
3	骨学2：上肢骨②上腕骨、尺骨、橈骨									
4	骨学3：上肢骨③手部									
5	骨学4：胸郭・脊柱（頸部）									
6	骨学5：脊柱（胸部・腰部）									
7	骨学6：下肢骨①骨盤、大腿骨									
8	骨学7：下肢骨②脛骨、腓骨、足部									
9	筋学総論									授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間概ね各1時間程度）
10	筋学1：上肢の筋①上肢帯の筋									
11	筋学2：上肢の筋②上腕・前腕・手部の筋									
12	筋学3：体幹の筋									
13	筋学4：下肢の筋①骨盤帯の筋									
14	筋学5：下肢の筋②大腿・下腿・足部の筋									
15	頭蓋骨、中枢神経									
教科書	『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』医学書院 『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』医学書院									
参考文献	『解剖学トレーニングノート』竹内修二著、第5版 医学教育出版社 『グレイ解剖学 原著第3版』塩田浩平・秋田恵一監訳、ELSEVIER 『ホネタン 骨単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』 『ニクタン 肉単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』									
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

理学療法士としての実務経験を活かし、学生が人体の構造と機能について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa02			
	●		●						
科目名	解剖学Ⅱ				単位認定者	山本 由似		試験(筆記)	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法 <td>%</td>	%
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間		%
				授業形態	講義	授業回数	15 回		%
授業の概要	<p>本科目では、特に生命維持に必須の機能である植物性機能と、感覚と神経機能及び運動に関連する動物性機能について学ぶ。植物性機能では、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の各器官の位置関係や構造について学修する。動物性機能では、中枢神経系、末梢神経系及び各種感覚器系について学修する。</p>								
到達目標	<p>1. 人体を構成する器官系の名称をあげて説明できる。 2. 各器官系を構成する器官の名称をあげて説明できる。 3. 各器官系を構成する器官の組織学的な特徴をあげて説明できる。 4. 各器官系とその主な機能を関連付けて説明できる。</p>								
学修者への期待等	<p>授業は教科書とレジュメをもとに行ないます。授業を行った日と次回の授業の前日に、教科書・レジュメを参考にしながら復習すること。わからないところ、疑問に思ったところがあれば積極的に質問して、暗記ではなく理解を深めて下さい。</p>								
回	授業計画				準備学修				
1	解剖学総論				<p>講義前、授業計画に該当する箇所について教科書を一読する(30分程度)。講義後、教科書の該当箇所とレジュメを繰り返し読み、内容を復習する(90分程度)。</p>				
2	細胞とは								
3	組織とは								
4	循環器系-1								
5	循環器系-2								
6	消化器系(口腔～胃)								
7	消化器系(小腸～肛門)								
8	消化器系(肝臓・胆嚢・膵臓)								
9	呼吸器系								
10	泌尿器系								
11	生殖器系								
12	内分泌系								
13	神経系(中枢神経)								
14	神経系(末梢神経)								
15	感覚器系								
教科書	『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』 医学書院								
参考文献	『入門人体解剖学』藤田恒夫著、第5版 南江堂 『解剖学講義』第3版 南山堂 『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論』医学書院 『グレイ解剖学 原著第3版』塩田浩平・秋田恵一監訳、ELSEVIER								
備考	PT・OT合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa03			
●			●						
科目名	解剖学演習				単位 認定者	大和田宏美		試験（筆記）	60 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	PT	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	試験 (レポート)	40 %
	OT	必修	1年			授業時間数	30 時間		
					授業形態	演習	授業回数	15 回	
授業の概要	本科目では、解剖学Ⅰで学んだ骨および筋の名称を実際の骨模型および筋模型を用いて立体的な位置関係を確認する。また、骨や筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について、人体でイメージできるように学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 各骨の位置、各筋の位置、筋の起始・停止、筋の作用を理解し、骨模型および筋模型を通してイメージできるようにする。 骨格系・筋系・末梢神経系の位置関係を学修し、人の体の動きについて理解を深めることで臨床に繋げることができるようになる。 								
学修者への期待等	グループワーク中心の講義となります。講義以外にグループで骨格系・筋系・末梢神経系について、骨模型や筋模型を使用して、互いに問題を出題しあい復習を行ってください。理学療法及び作業療法の専門知識を学ぶ上で必要になる基本的な知識を身に付けてください。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	骨模型：骨の位置関係、連結				授業計画に該当する骨について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間概ね各1時間程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
2	骨学演習1：上肢骨①鎖骨、肩甲骨							大和田 宏美 大橋 孝子	
3	骨学演習2：上肢骨②上腕骨、尺骨、橈骨							大和田 宏美 大橋 孝子	
4	骨学演習3：上肢骨③手部							大和田 宏美 大橋 孝子	
5	骨学演習4：胸郭・脊柱（頸部）							大和田 宏美 荒牧 隼浩	
6	骨学演習5：脊柱（胸部・腰部）							大和田 宏美 荒牧 隼浩	
7	骨学演習6：下肢骨①骨盤、大腿骨							大和田 宏美 大橋 孝子	
8	骨学演習7：下肢骨②脛骨、腓骨、足部							大和田 宏美 大橋 孝子	
9	筋模型：筋の位置関係、浅層筋および深層筋の位置関係				授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間概ね各1時間程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
10	筋学演習1：上肢の筋①上肢帯の筋							大和田 宏美 大橋 孝子	
11	筋学演習2：上肢の筋②上腕・前腕・手部の筋							大和田 宏美 大橋 孝子	
12	筋学演習3：体幹の筋							大和田 宏美 荒牧 隼浩	
13	筋学演習4：下肢の筋①骨盤帯の筋							大和田 宏美 大橋 孝子	
14	筋学演習5：下肢の筋②大腿・下腿・足部の筋							大和田 宏美 大橋 孝子	
15	腕神経叢、腰神経叢の位置関係							大和田 宏美 大橋 孝子	
教科書	『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』医学書院 『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』医学書院								
参考文献	『解剖学トレーニングノート』竹内修二著、第5版 医学教育出版社 『グレイ解剖学 原著第3版』塩田浩平・秋田恵一監訳、ELSEVIER 『ホネタン 骨単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』 『ニクタン 肉単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』								
備考	PTA・PTB・OT 3クラス体制 自己学修用にスケッチブック（A4）、色鉛筆（12色）を準備する。 授業内課題はスケッチブック・レポートの提出になる。 スケッチブックは、骨と筋のスケッチと部位の名称等の記載が必要である。 スケッチブックは、それぞれ骨学・筋学講義終了後に提出し、採点後にスケッチブックを返却する。 骨および筋について、学修できているかについて口頭試験で評価する。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa04			
	●		●						
科目名	解剖学実習				単位 認定者	伊橋光二		試験（実技）	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の 方法	%
	O T	必修	1年			授業時間数	40 時間		%
				授業形態	実習	授業回数	20 回		%
授業の概要	理学療法および作業療法における検査・測定および治療を実施するにあたり、体表から骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管等の身体組織の触診を行えることは必要不可欠な技術である。本科目では、理学療法および作業療法と関わりが深い、運動器系の人体の構造を理解するために、骨の名称、筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について骨と筋の模型を用いて学修する。また、各組織の名称、筋の走行などの基本的な体表解剖学の確認を行うとともに、部位ごとに触診する技術を学修する。								
到達目標	1. 身体の内臓、器官の解剖学的名称と機能、触診が可能な部位を説明できるようになる。 2. 体表から骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管など身体組織を触診できるようになる。 3. 各組織、部位を触診する意義を理解し、診断・治療に正しく応用できるようになる。								
学修者への 期待等	身体の内臓や形態を体表から透かして見るように的確に捉え、筋骨格系組織を意識的に区別して触診ができることで、身体の内臓的異常・アライメント異常を確認でき、痛みの原因や損傷・障害のある筋骨格系組織の鑑別に繋げることができるようになる。また再現性のある正確な検査・測定および効果的治療が実施できる。授業にあたっては、解剖学の内容を十分に復習し、具体的到達目標に基づいた予習を行ったうえで授業に臨み、名称、位置、機能を総合的に学修することを原則とする。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	解剖学実習概論と各組織の触診方法				①配付資料を確認 ②シラバス・具体的到達目標を確認			伊橋 光二 鈴木 裕治	
2	骨・関節の触診①肩複合体				①解剖学の肩甲帯の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	
3	骨・関節の触診②上肢帯・上腕・前腕・手部				①解剖学の上腕・前腕・手部の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習（反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	
4	骨・関節の触診③骨盤・大腿				①解剖学の骨盤・大腿部の骨・関節・軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	
5	骨・関節の触診④下腿・足部				①解剖学の下腿・足部の骨・関節・軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	
6	骨・関節の触診⑤体幹				①解剖学の体幹の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	
7	骨・関節の触診⑥全身				①解剖学の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	
8	軟部組織の触診①肩複合体・上肢帯・上腕				①解剖学の肩・上腕部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	
9	軟部組織の触診②前腕・手部				①解剖学の前腕・手部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	
10	軟部組織の触診③骨盤・大腿				①解剖学の骨盤帯・大腿部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	

回	授業計画	準備学修	担当
11	軟部組織の触診④下腿・足部	①解剖学の骨盤帯・大腿部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
12	軟部組織の触診⑤体幹	①解剖学の体幹の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
13	軟部組織の触診⑥全身	全ての軟部組織の復習（触診の実技練習）（60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
14	血管、神経、その他身体組織の触診	①解剖学の血管・神経の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
15	触診の理学療法への応用	①学習した触診部位、触診の流れの確認 ②学習した検査・測定の復習（30分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
16	解剖学実習における倫理	①配付資料を確認 ②シラバス・具体的到達目標を確認	伊橋 光二 鈴木 裕治
17	人体解剖実習①上肢・神経系	①第16回（倫理）の確認（5分） ②全ての骨・関節・軟部組織の復習（40分程度） ③人体解剖実習の課題を実施し提出（60分程度）	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
18	人体解剖実習②下肢・神経系	①第16回（倫理）の確認（5分） ②全ての骨・関節・軟部組織の復習（40分程度） ③人体解剖実習の課題を実施し提出（60分程度）	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
19	人体解剖実習③体幹・臓器	①第16回（倫理）の確認（5分） ②全ての骨・関節・軟部組織の復習（40分程度） ③人体解剖実習の課題を実施し提出（60分程度）	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
20	総復習	全ての骨・関節・軟部組織の復習（触診の実技練習）（60分程度）	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
教科書	『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢』メジカルビュー社 『運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹』メジカルビュー社		
参考文献	『骨格筋の形と触察法』大峰閣 『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』医学書院 『プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部／神経解剖』医学書院 『カラー版 筋骨格系のキネシオロジー』医歯薬出版株式会社 『基礎運動学』医歯薬出版株式会社		
備考	PTA・PTB・OT 3クラス体制（16回は3クラス合同） 第17～19回は学外での人体解剖学実習		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa05			
科目名	生理学 I				単位 認定者	鈴木裕一		試験 (筆記)	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	%
	O T	必修	1 年			授業時間数	30 時間		%
				授業形態	講義	授業回数	15 回		%
授業の概要	<p>生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素（細胞 - 組織 - 器官）に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。生理学 I では、主に動物性功能について学ぶ。本科目では、中枢神経系、末梢神経系、骨格筋系、感覚器系の構造（形態）機能について学修する。人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態及び生理機能を学び、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ（メカニズム）についての基礎的な知識を身につける。</p>								
到達目標	<p>1. 人体を構成する各要素（細胞・組織・器官）に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を説明できる。 2. 人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態および生理機能を説明し、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のメカニズムについて構造（形態）機能を一体的に説明できる。</p>								
学修者への期待等	<p>1. 理学療法・作業療法を学ぶのに基礎となる科目なので真剣に取り組むこと。 2. 臨床医学（内科学など）を理解するのに必要な科目であることを頭に入れて取り組むこと。</p>								
回	授業計画				準備学修				
1	人体について				教科書の該当ページについて予習すること（概ね30分）				
2	細胞と組織				講義資料について復習し、小テスト(1)を実施するための準備をすること（概ね30分）。教科書の該当ページについて予習すること（概ね20分）				
3	皮膚と膜								
4	骨格系：骨と関節								
5	筋系：骨格筋の活動性								
6	神経組織：神経細胞と支持細胞								
7	中枢神経系：脳の構造と機能				講義資料について復習し、小テスト(2)を実施するための準備をすること（概ね30分）。教科書の該当ページについて予習すること（概ね20分）				
8	中枢神経系：高次脳機能								
9	末梢神経系								
10	自律神経系								
11	体性感覚				講義資料について復習し、小テスト(3)を実施するための準備をすること（概ね30分）。教科書の該当ページについて予習すること（概ね20分）				
12	特殊感覚（1）：目と視覚								
13	特殊感覚（2）：耳（聴覚と平衡覚）								
14	運動制御								
15	言語、発声構音機能								
教科書	『人体の構造と機能』エレイN, マリープ著 医学書院								
参考文献									
備考	PT・OT合同授業								
※以下は該当者のみ記載する。									
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）									

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa08				
科目名	運動学総論				単位認定者	原和彦		試験(筆記)	80%	
対象学科等 必修・選択 配当年次	PT	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	20%
	OT	必修	1年			授業時間数	15時間			%
				授業形態	講義	授業回数	8回			%
授業の概要	運動学は、身体運動の仕組みについて学ぶ理学療法および作業療法の基礎となる重要な学問である。人間の運動の科学と定義される運動学は、医学、物理学、心理学、社会学など多くの学問分野を統合したものに成り立つ応用学問であると言える。本科目では、力学の基礎や筋骨格系の構造と機能や関節運動、姿勢制御や歩行周期、運動の中枢神経機構、運動学習理論など運動学の基礎的な知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法・作業療法における運動学の位置づけを理解できる。 2. 一般的に用いられる単位系について説明できる。 3. 力学について説明できる。 4. 歩行や運動の仕組みを説明できる。 									
学修者への期待等	運動学では人の動作や運動をどのように行っているか骨、関節の動きや筋力の作用について知ることを目的としています。教科書やLMSにて講義の箇所について予習して講義に望んでください。またわからない箇所はそのままにせず教員に質問してください。									
回	授業計画				準備学修					
1	ニュートン力学の基礎、力学の分類、生体力学の一般的基礎				教科書①P1～31を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。					
2	並進運動と回転運動、重心、床反力				教科書①P24～46を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。					
3	位置、速度、加速度の関係、床反力と体重心加速度の関係、COPと支持基底面について				教科書①P26～46を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。					
4	仕事、仕事率、エネルギー、関節モーメント				教科書①P35～46を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。					
5	テコ、滑車、骨格筋の構造と機能				教科書①P40～46を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。					
6	立位姿勢、歩行の観察、歩行周期の基礎				教科書①P347～378を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。					
7	動作観察と運動の中枢神経機構				教科書①P404～440を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。					
8	起居動作、動作介助における身体運動の観察分析				教科書①P441～466を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。					
教科書	①『基礎運動学』医歯薬出版 ②『エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床』エルゼビア・ジャパン									
参考文献	『筋骨格系のキネシオロジー』医歯薬出版									
備考	PT・OT合同授業									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
理学療法士としての実務経験を活かし、学生が身体運動の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa09				
科目名	運動学演習 I				単位 認定者	原和彦 坂上尚穂		試験（筆記）	80 %	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 （小テスト）	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間			%
				授業形態	演習	授業回数	15 回			%
授業の概要	運動学演習 I では、主に上肢と体幹の運動学について学ぶ。上肢と体幹の筋骨格系の構造と機能、関節運動と靭帯および筋の作用について学修する。解剖学・生理学の知識に基づき科学的にヒトの活動制御の仕組みを理解し、分析する力を身につける。また、分析により問題点を把握できるようになる。									
到達目標	1. 上肢の関節構造と筋による作用を説明できる。 2. 上肢の関節構造と靭帯による制動を説明できる。 3. 体幹の関節構造と筋による作用を説明できる。 4. 体幹の関節構造と靭帯による制動を説明できる。									
学修者への期待等	解剖学・運動学の知識を応用し、症例への評価、運動療法につなげてください。臨床評価を学ぶ上での基盤となる内容です。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	上肢・体幹の関節構造の概要				指定教科書①p169-180、②p213-216までを予習してください（30分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
2	肩関節複合体の構造（筋と靭帯）				指定教科書①p51-88までを予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
3	肩関節複合体の運動と機能（骨模型と触診を用いて演習）									
4	肘関節・橈尺関節の構造（筋と靭帯）				指定教科書①p89-115までを予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
5	肘関節・橈尺関節の運動と機能（骨模型と触診を用いて演習）									
6	手関節の構造（筋と靭帯）				指定教科書①p117-168までを予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
7	手関節の運動と機能（骨模型と触診を用いて演習）									
8	手指の構造（筋と靭帯）				指定教科書①p137-164までを予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
9	手指の運動と機能（骨模型と触診を用いて演習）									
10	環椎後頭関節～頸椎の構造（筋と靭帯）				指定教科書①p180-216の該当箇所（頸椎）を予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
11	環椎後頭関節～頸椎の運動と機能（骨模型と触診を用いて演習）									
12	胸椎・胸郭の構造（筋と靭帯）				指定教科書①p359-365の該当箇所（換気）を予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
13	胸椎・胸郭の構造の運動と機能（骨模型と触診を用いて演習）									
14	腰椎・仙腸関節の構造（筋と靭帯）				指定教科書①p180-216の該当箇所（腰椎）を予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
15	腰椎・仙腸関節の運動と機能（骨模型と触診を用いて演習）									
教科書	①『エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床』エルゼビア・ジャパン ②『基礎運動学 第6版補訂』医歯薬出版									
参考文献	『身体運動学 関節の制御機構と筋機能』メジカルビュー社									
備考	PTA・PTB・OT 3クラス体制									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）										
原和彦、坂上尚穂：理学療法士としての実務経験を活かし、学生が人の活動制御の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa010				
科目名	運動学演習Ⅱ				単位 認定者	原和彦 大橋孝子		試験(筆記)	80 %	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間		%	
				授業形態	演習	授業回数	15 回		%	
授業の概要	運動学演習Ⅱでは、主に下肢の運動学について学ぶ。下肢の筋骨格系の構造と機能、関節運動と靭帯および筋の作用や実際の身体運動における役割・機能について学修する。また、姿勢・歩行における正常・異常、身体運動におけるエネルギー代謝などに関する基礎的な知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下肢の関節構造と筋による作用を説明できる。 2. 下肢の関節構造と靭帯による制動を説明できる。 3. 下肢・体幹の運動と姿勢・歩行と知識の結びつけ、説明できる。 4. 身体運動におけるエネルギー代謝を説明できる。 									
学修者への 期待等	解剖学・運動学の知識を応用し、症例への評価、運動療法につなげてください。臨床評価を学ぶ上での基盤となる内容です。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	下肢の関節構造と移動の概要				指定教科書②p246-247を予習してください(30分程度)。			原 和彦 大橋 孝子 坂上 尚穂		
2	股関節の構造(筋と靭帯)				指定教科書①p217-258を予習してください(60分程度)。			大橋 孝子 坂上 尚穂		
3	股関節の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)							大橋 孝子 坂上 尚穂		
4	膝関節・橈尺関節の構造(筋と靭帯)				指定教科書①p259-289を予習してください(60分程度)			大橋 孝子 坂上 尚穂		
5	膝関節・橈尺関節の運動と機能 (骨模型と触診を用いて演習)							大橋 孝子 坂上 尚穂		
6	足関節の構造(筋と靭帯)				指定教科書①p293-328を予習してください(60分程度)。			大橋 孝子 坂上 尚穂		
7	足関節の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)							大橋 孝子 坂上 尚穂		
8	足部の構造(筋と靭帯)							大橋 孝子 坂上 尚穂		
9	足部の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)							大橋 孝子 坂上 尚穂		
10	姿勢(重心と支持基底面)				指定教科書②p347-364を予習してください(60分程度)。			大橋 孝子 坂上 尚穂		
11	姿勢(バランス・平衡機能と運動)				指定教科書②p364-372を予習してください(60分程度)。			大橋 孝子 坂上 尚穂		
12	正常歩行①歩行周期と各関節の運動				指定教科書①p331-347を予習してください(60分程度)。			大橋 孝子 坂上 尚穂		
13	正常歩行②運動力学分析と筋活動				指定教科書②p390-401を予習してください(60分程度)。			大橋 孝子 坂上 尚穂		
14	姿勢・歩行総復習				10回～13回までの授業資料			大橋 孝子 坂上 尚穂		
15	運動のためのエネルギー供給機構				指定教科書②p401-404を予習してください(30分程度)。			大橋 孝子 坂上 尚穂		
教科書	①『エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床』エルゼビア・ジャパン ②『基礎運動学 第6版補訂』医歯薬出版									
参考文献	『身体運動学 関節の制御機構と筋機能』メジカルビュー社									
備考	PTA・PTB・OT 3クラス体制									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa014			
科目名	人間発達学				単位認定者	外里富佐江		試験(筆記)	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	%
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間		%
				授業形態	講義	授業回数	8 回		%
授業の概要	<p>本科目では、生涯にわたる人間発達の様相を、胎児期・新生児期から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の発達段階の視点で学修する。それぞれが持つ身体的、精神的、心理社会的特徴とその障害を理解し、発達に応じた社会との関わりを総合的に捉え、具体的支援の在り方について学修する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人間発達の概要を理解できるようになる。 各発達領域が相互に関連しながら発達することを理解する。 胎児期から老年期の各発達段階の特徴を理解できるようになる。 								
学修者への期待等	新聞記事、ニュースなど最新の社会的な知見に触れ、積極的に議論できるように授業に臨むこと。								
回	授業計画				準備学修				
1	人間発達学の概要 胎児期・新生児期・乳児期の特徴				兄弟・両親・祖父母などの生活について観察しておくこと。				
2	運動発達と姿勢反射(原始反射・正常姿勢反応)の関係				テキスト第1章3「発達理論」p13-26で予習・復習すること(概ね40分)。				
3	上肢機能の発達 視覚機能の発達 目と手の協調性				テキスト第3「視覚・眼球運動・ハンドスキル」p184-201で予習・復習すること(概ね60分)				
4	認知機能の発達				テキスト第2章「幼児期」p69-88で予習・復習すること(概ね40分)				
5	社会性の発達 言語の発達				テキスト第3章「聴覚_言語機能の発達」p202-221で予習・復習すること(概ね60分)				
6	遊びと日常生活活動の発達				テキスト第2章「青年期」「成人期」p89-115で予習・復習すること(概ね60分)				
7	幼児期と児童期の特徴				テキスト第2章「幼児期」p56-68で予習・復習すること(概ね40分)				
8	青年期・成人期・老年期の特徴				テキスト第2章4「高齢期」p123-151で予習・復習すること(概ね60分)				
教科書	『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 改訂6版』福田恵美子編, 中外医学社								
参考文献	『発達を学ぶ 人間発達学レクチャー』協同医書出版社								
備考	PT・OT合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb10				
科目名	栄養学				単位認定者	岩間正典・高泉佳苗		試験（筆記）	70 %	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間			%
				授業形態	講義	授業回数	8 回			%
授業の概要	<p>栄養は、生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質およびその働きである。適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。栄養過多は高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの生活習慣病を惹起する可能性がある。一方で、栄養不足は生命の恒常性を保持することが困難になる。本科目では、栄養に関する基礎的な知識を身につけ、理学療法および作業療法を実施する上で必要な栄養管理とその指導について学修する。</p>									
到達目標	<p>1. 栄養について基本的知識を習得し、説明できる。 2. 理学療法・作業療法の効果を高めるために必要な栄養管理について理解し、説明できる。</p>									
学修者への期待等	<p>リハビリテーションに必要な栄養の基礎知識を身につけて、リハビリテーションにおける栄養管理の重要性を理解してください。</p>									
回	授業計画				準備学修		担当			
1	栄養学概論：リハビリテーションにおける栄養知識の重要性について				教科書序章をよく読んで概要を理解しておくこと。（概ね30分）		岩間 正典			
2	栄養素の消化と吸収				教科書第1章3「栄養素の役割」を読んでおくこと。（概ね30分）		岩間 正典			
3	エネルギー代謝、食事摂取基準				授業で学んだ「日本人の食事摂取基準」について復習すること。（概ね30分）		岩間 正典			
4	運動時の栄養管理				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
5	栄養補給法、栄養ケアプロセス				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
6	病態別の栄養管理（1）：低栄養、過栄養				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
7	病態別の栄養管理（2）：摂食嚥下障害、フレイル、サルコペニア				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
8	疾患別の栄養管理：術前・術後、脳卒中、がん、大腿骨近位部骨折				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
教科書	『リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎』 栢下淳・若林秀隆編著、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養』 若林秀隆著、医歯薬出版株式会社									
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb11				
		●	●							
科目名	救急救命学				単位認定者	堀口 雅司		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
	O T	必修	1年		授業形態	講義	授業時間数		15 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	救急医療とは、一般市民による心肺蘇生法を含めた応急手当、119番通報と救急車の出動、救急隊員や救急救命士による現場での応急処置や救急搬送などの病院前救護から、救急室での救命治療、ICUでの重症患者管理などをいう。本科目では、理学療法士及び作業療法士の関わりも含め、緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方、心肺蘇生・応急処置について学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命医学について対象となりうる疾患、外傷について理解し説明できる。 救急救命医学における理学療法士、作業療法士の関わりを理解し説明できる。 									
学修者への期待等	医療従事者の一員である理学療法士、作業療法士として、救急救命の知識・技術を修得でき、実践できるように努めてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	応急手当の基礎知識 Ⅰ 応急手当と救命処置・Ⅱ 救命の連鎖と住民の役割・Ⅲ 突然の心停止を防ぐために				テキスト §1 応急手当の基礎知識にて予習すること。(概ね1時間)					
2	救命処置① Ⅰ 救命処置の流れ(心肺蘇生法とAEDの使用) Ⅱ 救命処置の手順(心肺蘇生法・AEDの手順)				テキスト §2 救命処置にて予習すること。(概ね1時間)					
3	救命処置② Ⅰ 救命処置の流れ(心肺蘇生法とAEDの使用) Ⅱ 救命処置の手順(心肺蘇生法・AEDの使用手順) 簡易訓練人形とAED(紙)による演習(2人1組)				テキスト §2 救命処置にて予習すること。(概ね1時間)					
4	救命処置③ Ⅰ 救命処置の流れ(心肺蘇生法とAEDの使用) Ⅱ 救命処置の手順(心肺蘇生法・AEDの使用手順) 簡易訓練人形とAED(紙)による演習(2人1組)				テキスト §2 救命処置にて予習すること。(概ね1時間)					
5	救命処置④ Ⅱ 救命処置の手順(気道異物の除去) Ⅲ 乳児の救命処置				テキスト §2 救命処置にて予習すること。(概ね1時間)					
6	その他の応急手当① Ⅰ 傷病者の管理法(安全・保温・体位) Ⅱ 止血法(直接圧迫止血法)				テキスト §3 その他の応急手当(ファーストエイド)にて予習すること。(概ね1時間)					
7	その他の応急手当② Ⅰ 傷病者の管理法(安全・保温・体位) Ⅱ 止血法(直接圧迫止血法) Ⅲ 病気やけがに対する応急手当				テキスト §3 その他の応急手当(ファーストエイド)にて予習すること。(概ね1時間)					
8	その他の応急手当③ Ⅲ 病気やけがに対する応急手当 (三角巾の使用法・搬送法など) その他(119番通報と救急車の呼び方)				テキスト §3 その他の応急手当(ファーストエイド) §4 その他にて予習すること。(概ね1時間)					
教科書	『改訂6版 応急手当講習テキスト 救急車がくるまでに』 制作 一般財団法人 救急振興財団 東京法令出版									
参考文献	『リハベーシック 安全管理学・救急医療学』医歯薬出版株式会社									
備考	PT・OT合同授業									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFc01			
科目名	リハビリテーション概論				単位認定者	佐直 信彦		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	%
	O T	必修	1年		授業形態	講義	授業時間数		30 時間
							授業回数		15 回
授業の概要	リハビリテーションは障害を有する者を対象とする。医学や医療技術の進歩発展、超高齢化とともに、障害と関わって生活することは誰にでも起こりうる社会となった。本科目では、自立支援や就労支援を含むリハビリテーションの基本理念ならびに生活機能とその障害の正しい理解を目指す。また、リハビリテーション医療の特性と、多職種連携を理解した上で、地域包括ケアシステムについても学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「リハビリテーション」の多義性－理念、科学、サービス提供－について説明できる。 健康、疾病、障害と「国際生活機能分類 ICF」について理解でき、リハビリテーションの諸領域において展開できる。 リハビリテーションの諸領域と専門職連携についてチームアプローチモデルに基づいて説明でき、療法士として実践できる。 リハビリテーション過程について説明でき、理学療法・作業療法のなかで展開できる。 								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 専門の科目は全て新しく学ぶ分野なので、授業中に理解できるように集中し、解らないことは質問すること。 LMS上の授業資料(事前に配付)とコメントをもとに準備すること。授業後は、ノートやLMS資料への書き込み等を整理し、復習に重点を置くこと。 								
回	授業計画				準備学修				
1	リハビリテーションとは (1) 障害者とリハビリテーションをめぐって				教科書1p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
2	リハビリテーションとは (2) 「障害者」諸外国の対応と我が国の変遷				教科書17p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
3	リハビリテーションとは (3) 我が国における「リハビリテーション」の語義の用例				復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
4	リハビリテーションとは (4) 健康と生活の質				教科書21p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
5	病気と障害 (1) 病気とは、傷害とは、そしてICF				教科書29p～、39p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
6	病気と障害 (2) 慢性疾患モデルと障害予防 リハビリテーションと心理： 心理的適応の過程・障害受容				教科書54p～、109p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
7	リハビリテーションの諸領域 I 医学的リハビリテーション				教科書115p～、121p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
8	II 障害児教育、III 職業リハビリテーション IV 社会リハビリテーション・地域リハビリテーション				教科書127p～、137p～、150p～、215p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
9	V 障害福祉サービスと補装具／日常生活用具				教科書318p～、353p～、215p～、3962p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
10	VI 高齢者サービス (1) 高齢者対策の理念と推移、 高齢者リハビリテーション				教科書154p～、359p～、 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
11	VI 高齢者サービス (2) 高齢者リハビリテーションの特殊問題と介護制度				教科書155p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
12	リハビリテーションの過程 I 評価とプログラム ～測定・評価～				教科書167p～、 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
13	II チームアプローチと専門職				教科書183p～、186p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
14	III 疾病治療とリハビリテーション医療 IV 廃用症候群 (1) 総論				参考文献「入門リハ医学」193p～、432p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
15	IV 廃用症候群 (2) 各論				参考文献「入門リハ医学」432p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
教科書	『入門リハビリテーション概論』中村隆一・佐直信彦編、医歯薬出版株式会社								
参考文献	『入門リハビリテーション医学』中村隆一監修、岩谷力・佐直信彦他編、医歯薬出版株式会社(図書館蔵)								
備考	<ul style="list-style-type: none"> PT・OT合同授業・授業資料等はLMSに投稿する。 教科書の頁数は版、刷の改訂で変わります。 授業内課題の解答及び筆記試験の結果の講評はLMSに掲載する。 個別には教員研究室にて対応する。 								
※以下は該当者のみ記載する。									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)									

リハビリテーション学部
理学療法学専攻
1年生

■ 専門科目シラバス

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMa01				
	●		●	●						
科目名	理学療法学概論				単位認定者	網本和		授業内課題 (レポート等)	20 %	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T		必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	授業内課題 (小テスト)	30 %
						授業形態		講義	授業時間数	30 時間
					授業回数		15 回			
授業の概要	<p>本科目は、理学療法の基軸を理解するため科目である。理学療法の本質と将来の方向性を理解するために、理学療法の定義、歴史、役割、将来展望を学ぶ。また、理学療法の業務や考え方、対象疾患や治療手段、理学療法士に関連する法規や保険制度および世界の理学療法の現状と課題について学修する。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の定義について説明できる 2. 理学療法士の専門性と役割について説明できる 3. 理学療法士の対象疾患と、その治療手段について説明できる 4. 理学療法士に関連する法規や保険制度について説明できる 									
学修者への期待等	<p>理学療法は様々な疾病・障害領域の評価と治療を担当することになるので、広く関心を持って予習し、講義後には当該領域について復習をし、今後の理学療法学の基盤を形成することが期待されている。</p>									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	理学療法概要 理学療法とは～理学療法と倫理・哲学				参考書第1章・8章・9章を読んでおくこと 概ね30分程度			網本 和		
2	理学療法の歴史				参考書第12章を読んでおくこと 概ね30分程度			網本 和		
3	理学療法士を取り巻く法制度				参考書第11章を読んでおくこと 概ね30分程度			伊橋 光二		
4	理学療法の基盤 理学療法モデル				参考書第2章・7章を読んでおくこと 概ね30分程度			伊橋 光二		
5	理学療法の学問的体系化と研究法				参考書第10章を読んでおくこと 概ね30分程度			伊橋 光二		
6	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ①呼吸器疾患				参考書第5章・6章を読んでおくこと 概ね30分程度			伊橋 光二		
7	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ②循環器疾患				参考書第5章・6章を読んでおくこと 概ね30分程度			網本 和		
8	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ③神経系疾患 (脳卒中)				参考書第5章・6章を読んでおくこと 概ね30分程度			網本 和		
9	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ④運動器疾患				参考書第5章・6章を読んでおくこと 概ね30分程度			網本 和		
10	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ⑤小児疾患				参考書第5章・6章を読んでおくこと 概ね30分程度			網本 和		
11	理学療法組織と部門管理				参考書第13章を読んでおくこと 概ね30分程度			金谷 さとみ		
12	理学療法と心理・メンタルヘルス				参考書第13章を読んでおくこと 概ね30分程度			金谷 さとみ		
13	理学療法と地域包括ケア、災害への対応				参考書第11章を読んでおくこと 概ね30分程度			金谷 さとみ		
14	理学療法士の組織とその活動				参考書第12章を読んでおくこと 概ね30分程度			金谷 さとみ		
15	世界の理学療法 ～先進諸国の理学療法、発展途上国への援助				参考書第12章を読んでおくこと 概ね30分程度			網本 和		
教科書	適時、資料を配付する。									
参考文献	『PTスタートガイド 基礎理学療法学概論 改訂第2版』 MEDICAL VIEW									
備考	PTA・PTB 2クラス合同体制									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング								
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa01								
	●	●	●	●										
科目名	トランスレーショナルセミナー I				単位認定者	大和田宏美 伊藤大亮		授業内課題 (レポート等)	100 %					
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	%					
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		%					
						授業回数	15 回		%					
授業の概要	<p>トランスレーショナルセミナーI～トランスレーショナルセミナーIVは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。</p> <p>トランスレーショナルセミナーIでは、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー(講義の受け方、各種レポートの作成方法など)と、理学療法を知ることの重点を置く。また、グループワークなどを通じて、理学療法に関する様々なテーマについて学修する。</p>													
到達目標	<p>1. 大学生活を有意義に送るための基本的な知識やスキルを身につける</p> <p>2. 理学療法を知り、大学での学びを充実したものとするための契機とする</p>													
学修者への期待等	<p>大学生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、教員の話の聞いたりといろいろな考えに触れてほしい。</p>													
回	授業計画				準備学修									
1	【1～4年生合同】理学療法を学ぶ意義				理学療法とは何かについて考えてくる(概ね30分程度)。									
2	【1～4年生合同】理学療法を学ぶということ ディスカッション													
3	大学の教育方針 3つのポリシーについて				学生便覧とシラバスを読んでカリキュラムを確認してくる。(概ね30分程度)									
4	カリキュラムについて 理学療法士になるには													
5	グループワーク①自己紹介 理学療法とは				授業内容をノートにまとめる。(復習30分程度)									
6	グループワーク②理学療法士の活躍の場													
7	【2専攻1年生合同】理学療法士と作業療法士 (仕事内容の比較、共通点、特徴等)													
8	大学生活での学び①社会生活、大学生活のルール													
9	大学生活での学び②講義の受け方													
10	大学生活での学び③学習計画の立て方、自己管理能力													
11	大学生活での学び④情報リテラシー													
12	大学生活での学び⑤文献検索の仕方、図書室の利用													
13	大学生活での学び⑥心の相談室													
14	大学生活での学び⑦ハラスメント													
15	大学生活での学び⑧先輩から学ぶ大学生活													
教科書	適時、資料を配付する。													
参考文献	必要に応じて紹介する。													
備考	【担当教員】網本 和、原 和彦、伊藤 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、坂上 尚穂、小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治、荒牧 隼浩 1, 2, 4, 5, 6, 15回: PTOT別 3, 7~14回: PTOT合同													

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPM01			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床実習 I (体験実習)				単位認定者	大和田宏美		実習内容	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	%
					授業形態	実習	授業時間数		45 時間
				授業回数		集中			%
授業の概要	<p>本科目では、実習施設において、実際の理学療法を体験することを目的とする。さらに、理学療法士の活動見学や理学療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方・接し方などの医療面接スキルを身につける。また、理学療法士の役割と位置づけ、他職種との連携などリハビリテーションチームとは何かを体験する。</p>								
到達目標	<p>1) 対象者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成する。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動がとれる。 3) 基本的理学療法の見学・体験を通して、自己の理学療法観を育成できる。</p>								
学修者への期待等	<p>はじめての臨床実習ですので、利用者と積極的にコミュニケーションを図ってください。 ・実習施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動をとること ・実習記録の作成・提出は期限を厳守すること</p>								
授業計画					準備学修				
<p>1. 実習期間 【9月第1週～9月第4週のうち1週】</p> <p>2. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 実習施設でのオリエンテーションや理学療法士の治療業務および理学療法に関連する他部門等を見学する。 実習施設においては、毎日、臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 学内教員から、臨床実習記録および実習生指導報告書をふまえた指導を受ける。 <p>3. 成績評価</p> <p>以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。</p> <p>成績評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床実習記録（自己学修内容も含む） <p>※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。</p>					<p>臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身につけてください。また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身に付けてください。</p>				
教科書	『PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター』羊土社 『基礎編・ケースで学ぶ理学療法臨床思考』文光堂								
参考文献									
備考	『臨床実習の手引き』（配付資料） 【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、坂上 尚穂、小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治、荒牧 隼浩								
※以下は該当者のみ記載する。									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)									

リハビリテーション学部
作業療法学専攻
1年生

■ 専門科目シラバス

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMa01			
	●		●	●					
科目名	作業療法学概論				単位認定者	齋藤佑樹		試験（筆記）	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	%
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間
				授業回数		8 回	%		
授業の概要	<p>本科目では、医療・保健・福祉領域で広く求められる作業療法について、我が国および諸外国における作業療法の歴史の変遷や現状を概観しながら、その独自性と専門性について考えていく。また、さまざまな事例報告に触れる機会を通して、作業療法の知識と技術が臨床現場でどのように発揮されているのかを学ぶとともに、領域別の特色や、領域の枠にとらわれない作業療法の普遍性について理解を深めていく。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法とはなにかを説明することができる 2. 作業療法の普遍的な目的および手段の多様性について言語化することができる 								
学修者への期待等	作業療法士になるための基盤となる学問です。積極的な参加態度を期待します。								
回	授業計画				準備学修				
1	作業療法の定義、倫理綱領、関連法規				科目専用のノートを準備してください				
2	作業療法の歴史：ピネルの道徳療法、アーツ&クラフツ運動、プラグマティズム、我が国の作業療法の歴史				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
3	世界の作業療法の現状				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
4	作業療法の領域と対象				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
5	作業療法の実践過程（プロセス）				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
6	作業療法を観る：あきらめていた病前の趣味を再開、認知症者に対する社会資源の利用				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
7	作業療法士と一緒に働く関連職種、多職種連携				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
8	作業療法の普遍性（まとめ）				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
教科書	東登志夫（監）：シンプル作業療法シリーズ、作業療法学概論テキスト、南江堂								
参考文献	適宜紹介します								
備考	ICT利活用教育（LMS上で資料提示、課題資料回収を行う）。回収した成果物は後日フィードバックを行う。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMa02			
			●	●					
科目名	基礎作業学				単位認定者	齋藤佑樹		試験（筆記）	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	O T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	%
					授業形態		講義		授業時間数
				授業回数		8 回	%		
授業の概要	本科目では、作業や作業活動を治療的に用いる際に必要となる基礎的な知識を修得する。また、代表的な作業や作業活動の分析的視点および分析方法について学ぶ。加えて、作業を治療的に用いることができるよう、作業と心理機能、環境因子、個人因子との関係性についても学んでいく。								
到達目標	1. 作業がひとに与える影響を説明できる 2. 作業療法士が作業や作業活動をどのように治療に活用するのか説明できる 3. 基本的な作業の分析ができるようになる								
学修者への期待等	作業療法概論と並び、作業療法士になるうえでの基盤となる科目になります。作業は日常に当たり前の存在する人の経験を指す概念です。何気ない日常を改めて考察する機会がたくさんあります。主体的な参加を期待します。								
回	授業計画				準備学修				
1	作業の意味・形態・機能				教科書①のP4～7を読んでおくこと（概ね30分）				
2	ライフステージと作業、作業の文脈				前回の内容を復習し、教科書②のP28～31を読んでおくこと（概ね30分）				
3	作業バランス				前回の内容を復習し、教科書①のP8～9を読んでおくこと（概ね30分）				
4	作業的存在としての諸次元 (Doing Being Belonging Becoming)、 作業機能障害				前回までの内容を復習し、教科書①のP4～5を読んでおくこと（概ね30分）（概ね30分）				
5	作業を用いる意義（目的、手段、実存的）				前回の内容を復習し、教科書①のP12～13を読んでおくこと（概ね30分）				
6	包括的作業分析①：作業分析の視点				前回の内容を復習し、教科書②のP51～58を読んでおくこと（概ね30分）				
7	包括的作業分析②：作業分析を言語化する				前回の内容を復習しておくこと（概ね30分）				
8	作業のもつ力（まとめ）				前回までの内容を復習しておくこと（概ね30分）				
教科書	①『作業で語る事例報告 作業療法レジメの書き方・考え方 第2版』齋藤佑樹 編、医学書院 ②『標準作業療法学 専門分野 基礎作業学』医学書院								
参考文献	『「作業」ってなんだろう 作業科学入門』医歯薬出版株式会社								
備考	ICT活用教育（LMS上で資料提示、課題資料回収を行う）。回収した成果物は後日フィードバックを行う。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング								
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa01								
●	●	●	●	●										
科目名	トランスレーショナルセミナー I				単位 認定者	外里 富佐江		授業内課題 (レポート等)	100 %					
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	%					
						授業時間数	30 時間		%					
				授業形態	演習	授業回数	15 回		%					
授業の概要	<p>トランスレーショナルセミナー I～トランスレーショナルセミナーIVは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。</p> <p>トランスレーショナルセミナー I では、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー(講義の受け方、各種レポートの作成方法など)と、作業療法を知ることの重点を置く。また、グループワークなどを通じて、作業療法に関する様々なテーマについて学修する。</p>													
到達目標	<p>1. 大学生活を有意義に送るための基本的な知識やスキルを身につける</p> <p>2. 作業療法を知り、大学での学びを充実したものとするための契機とする</p>													
学修者への期待等	<p>大学生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、いろいろな考えに触れてほしい。</p>													
回	授業計画				準備学修									
1	【1～4年生合同】作業療法を学ぶ意義				作業療法とは何かについて考えてくる(30分程度)									
2	【1～4年生合同】作業療法を学ぶということ ディスカッション													
3	大学の教育方針 3つのポリシーについて				学生便覧とシラバスを読んでカリキュラムを確認してくる(30分程度)									
4	カリキュラムについて 作業療法士になるには													
5	グループワーク①自己紹介 作業療法とは				授業内容をノートにまとめる。(復習30分程度)									
6	グループワーク②作業療法士の活躍の場													
7	【2専攻1年生合同】理学療法士と作業療法士 (仕事内容の比較、共通点、特徴等)													
8	大学生活での学び①社会生活、大学生活のルール													
9	大学生活での学び②講義の受け方													
10	大学生活での学び③学習計画の立て方、自己管理能力													
11	大学生活での学び④情報リテラシー													
12	大学生活での学び⑤文献検索の仕方、図書室の利用													
13	大学生活での学び⑥心の相談室													
14	大学生活での学び⑦ハラスメント													
15	大学生活での学び⑧先輩から学ぶ大学生活													
教科書	適時、資料を配付する。													
参考文献	適宜、紹介する。													
備考	【担当教員】外里 富佐江、齋藤 佑樹、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧 1, 2, 4, 5, 6, 15回: PTOT別 3, 7～14回: PTOT合同													
※以下は該当者のみ記載する。														
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)														

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMe01			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床実習Ⅰ（体験実習）				単位認定者	外里 富佐江		実習内容	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	%
					授業形態	実習	授業時間数		90 時間
				授業回数		集中			%
授業の概要	<p>実習施設において実際の作業療法を見聞、体験することで作業療法に対する認識を高めることを目的とする。体験実習を通して作業療法士になるための自覚を持つとともに、作業療法士の活動見学や作業療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方・接し方など作業療法士に必要な基本的資質を身につける。</p> <p>また、臨床現場における作業療法士の役割と位置づけ、他職種との連携など、リハビリテーションチームとは何かを学修する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習施設の役割と機能を理解する 2. 実際の作業療法場面を見学し、作業療法の業務内容を理解する 3. 見学・体験した内容をまとめ、表現する能力を養う 4. 作業療法士の適性はどのようなものかを見学を通して認識し、今後の学修に対する動機付けとする 								
学修者への期待等	<p>臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ることを。</p>								
授業計画					準備学修				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 【9月24日（火）～10月4日（金）】 2. 実習計画 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 実習施設でのオリエンテーションや作業療法士の治療業務および理学療法に関連する他部門等を見学する。 3) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内教員から、臨床実習記録および実習生指導報告書をふまえた指導を受ける。 3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・ 臨床実習記録（自己学修内容も含む） ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。 					<p>ガイダンス及びセミナーに参加すること。</p>				
教科書	適時、資料を配付する。								
参考文献									
備考	【担当教員】外里 富佐江、齋藤 佑樹、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMf01				
	●		●		●					
科目名	地域生活支援論				単位認定者	外里富佐江 戸田祐子		試験 (レポート)	50 %	
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート等)	50 %
				授業形態	講義	授業時間数	15 時間			%
						授業回数	8 回			%
授業の概要	地域で作業療法を実践していくため、基礎となる身近な地域について理解を深める。車椅子利用者等の具体的な生活をイメージし、住み慣れた地域で安全に生活するためには何が必要であるのかを検討する。また、出身地域の現在の社会資源について調べ、リハビリテーションサービスが必要な対象者の生活について考える。									
到達目標	地域の人々の生活、環境、社会資源など、地域の特性を捉え説明できる。障害者（児）・高齢者の住みよい環境について学び、不自由を軽減するために、自らできることについて考え、説明できる。									
学修者への期待等	授業ではグループ学修やディスカッションを行います。他者の意見を聞く耳と、相手に届く言葉を選択し、意見を伝えることができるよう、柔軟な思考をもって授業に臨むこと。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	「地域」とは何か 身近な地域（仙台市）を調べる (地域における障害者（障害児を含む）・高齢者に目を向ける)				「地域」について学修した内容を復習すること（約30分）			外里 富佐江		
2	学生の出身地と仙台市の地域の違いを学ぶ（歴史・地理・地域資源サービスなど）				地域について制度的な内容も含めてまとめる。事後の課題をしっかりと行うこと。（約60分）			戸田 祐子 高橋 慧		
3	地域作業療法学における連携と協働について OTと連携する多職種の業種について調べる				地域作業療法を展開するうえで連携・協業が必要な職種とその役割について調べるための資料やPCを準備しておくこと。事後学修でまとめておくこと（約30分）			戸田 祐子 高橋 慧		
4	ノーマライゼーションとは (バリアフリー、ユニバーサルデザイン、車椅子利用者の移動)				学修した内容を復習すること（約30分）			戸田 祐子 高橋 慧		
5	車椅子の構造、操作及び介助方法を学ぶ				学修した内容を復習すること（約30分）			戸田 祐子 高橋 慧		
6	車椅子利用者の視点から地域（公共施設・商業施設）の社会資源を知る				学修した内容を復習すること（約60分）			戸田 祐子 高橋 慧		
7	地域（学生の出身地と仙台市）の違いを踏まえた生活支援について検討する				ディスカッションするための準備をして授業に臨むこと（約60分）			戸田 祐子 高橋 慧		
8	社会資源の利用、社会的環境整備への働きかけについて学ぶ				学修した内容を復習すること（約60分）			戸田 祐子 高橋 慧		
教科書	『標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学』医学書院									
参考文献										
備考										
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

リハビリテーション学部

- ナンバリング
- 教員一覧
- 実務経験を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

ナンバリングについて

ナンバリングとは、授業科目に適切な番号等を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。

各授業科目には、以下の法則にて符号を付しています。

教育課程の体系性を理解し、主体的な学修を行うために、活用してください。

①学部学科等区分

学部学科等名称（英語名称）	符号
リハビリテーション学部リハビリテーション学科 (Faculty of Rehabilitation Science, Department of Rehabilitation Science)	Re
リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻 (Faculty of Rehabilitation Science, Department of Rehabilitation Science, Division of Physical Therapy)	RP
リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 (Faculty of Rehabilitation Science, Department of Rehabilitation Science, Division of Occupational Therapy)	RO

②科目区分（大区分）

科目区分名称（英語名称）	符号
教養教育科目（Liberal Arts subjects）	L
専門基礎科目（Foundations of Major subjects）	F
専門科目（Major subjects）	M

③科目区分（小区分）

科目区分に上から順にa,b,c…とアルファベット小文字を付し、符号とする。

④授業科目

科目区分ごとの授業科目に上から順に01, 02, 03…と数字を付し、符号とする。

【ナンバリング例】

例1) リハビリテーション学部リハビリテーション学科

「解剖学Ⅰ」（理学療法学専攻、作業療法学専攻の共通科目）の場合、①Re②F③a④01

→ ナンバリングは「ReFa01」

例2) リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

「理学療法学概論」の場合、①RP②M③a④01

→ ナンバリングは「RPMa01」

例3) リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻

「作業療法学概論」の場合、①RO②M③a④01

→ ナンバリングは「ROMa01」

ナンバリング一覧

リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻 RP

科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	
教養科目 L	言語・情報系 a	日本語表現法	ReLa01
		英語Ⅰ	ReLa02
		英語Ⅱ	ReLa03
		英語Ⅲ	ReLa04
		情報処理Ⅰ	ReLa05
		情報処理Ⅱ	ReLa06
		ICT活用技術	ReLa07
	人文科学系 b	哲学	ReLb01
		生命倫理学	ReLb02
		心理学	ReLb03
		教育心理学	ReLb04
		宗教と民族	ReLb05
	社会科学系 c	人間関係論	ReLb06
		法学入門	ReLc01
		日本国憲法	ReLc02
		経済と政策	ReLc03
		教育学概論	ReLc04
	自然科学系 d	社会学	ReLc05
		社会保障論	ReLc06
		物理学	ReLd01
		生物学	ReLd02
自然環境と災害		ReLd03	
統計学入門		ReLd04	
専門基礎科目 F	人体の構造と機能 及び心身の発達 a	健康スポーツⅠ	ReLd05
		健康スポーツⅡ	ReLd06
		解剖学Ⅰ	ReFa01
		解剖学Ⅱ	ReFa02
		解剖学演習	ReFa03
		解剖学実習	ReFa04
		生理学Ⅰ	ReFa05
		生理学Ⅱ	ReFa06
		生理学実習	ReFa07
		運動学総論	ReFa08
		運動学演習Ⅰ	ReFa09
		運動学演習Ⅱ	ReFa010
		運動学実習	ReFa011
		機能解剖学実習	ReFa012
	臨床運動学	ReFa013	
	人間発達学	ReFa014	
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 b	薬理学	ReFb01
		病理学	ReFb02
		小児科学	ReFb03
		老年学	ReFb04
		内科学	ReFb05
神経学		ReFb06	
整形外科学		ReFb07	
精神医学		ReFb08	
臨床心理学		ReFb09	
栄養学		ReFb10	
保健医療福祉と リハビリテーションの理念 c	救急救命学	ReFb11	
	公衆衛生学	ReFb12	
	言語聴覚療法概論	ReFb13	
	臨床検査・画像診断学	ReFb14	
	リハビリテーション概論	ReFc01	
	チームアプローチ入門	ReFc02	
	保健医療福祉連携論	ReFc03	

科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	
…PTOT共通 専門科目 M	基礎理学療法学 a	理学療法学概論	RPMa01
		トランスレーショナルセミナーⅠ	ReMa01
		トランスレーショナルセミナーⅡ	ReMa02
		トランスレーショナルセミナーⅢ	ReMa03
		トランスレーショナルセミナーⅣ	ReMa04
		理学療法研究法Ⅰ	RPMa02
		理学療法研究法Ⅱ	RPMa03
	理学療法管理学b	理学療法管理学	RPMb01
	理学療法評価学 c	理学療法評価学	RPMc01
		基礎理学療法評価学実習	RPMc02
		運動器障害理学療法評価学実習	RPMc03
		神経障害理学療法評価学実習	RPMc04
		内部障害理学療法評価学実習	RPMc05
		理学療法評価学総合実習	RPMc06
	理学療法治療学 d	運動器障害理学療法学	RPMd01
		運動器障害理学療法学演習	RPMd02
		神経障害理学療法学	RPMd03
		神経障害理学療法学演習	RPMd04
		高次脳機能障害学	RPMd05
		内部障害理学療法学	RPMd06
		内部障害理学療法学演習	RPMd07
		神経筋疾患理学療法学	RPMd08
		小児理学療法学	RPMd09
		物理療法学	RPMd10
		物理療法学演習	RPMd11
		義肢装具学	RPMd12
		義肢装具学演習	RPMd13
日常生活活動学		RPMd14	
日常生活活動学実習		RPMd15	
予防理学療法学		RPMd16	
スポーツ理学療法		RPMd17	
疼痛理学療法		RPMd18	
先端理学療法		RPMd19	
臨床実習 e	臨床実習Ⅰ(体験実習)	RPMe01	
	臨床実習Ⅱ(評価実習)	RPMe02	
	臨床実習Ⅲ(総合実習)	RPMe03	
	臨床実習Ⅳ(総合実習)	RPMe04	
	地域リハビリテーション実習	RPMe05	
地域理学療法学 f	地域理学療法学	RPMf01	
	地域理学療法学演習	RPMf02	
	生活環境論	RPMf03	
特別演習 g	理学療法学総合演習Ⅰ	RPMg01	
	理学療法学総合演習Ⅱ	RPMg02	

ナンバリング一覧

リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 RO

科目区分	授業科目の名称	ナンバリング		
教養科目 L	言語・情報系 a	日本語表現法	ReLa01	
		英語Ⅰ	ReLa02	
		英語Ⅱ	ReLa03	
		英語Ⅲ	ReLa04	
		情報処理Ⅰ	ReLa05	
		情報処理Ⅱ	ReLa06	
		ICT活用技術	ReLa07	
	人文科学系 b	哲学	ReLb01	
		生命倫理学	ReLb02	
		心理学	ReLb03	
		教育心理学	ReLb04	
		宗教と民族	ReLb05	
	社会科学系 c	人間関係論	ReLb06	
		法学入門	ReLc01	
		日本国憲法	ReLc02	
		経済と政策	ReLc03	
		教育学概論	ReLc04	
		社会学	ReLc05	
	自然科学系 d	社会保障論	ReLc06	
		物理学	ReLd01	
		生物学	ReLd02	
		自然環境と災害	ReLd03	
		統計学入門	ReLd04	
		健康スポーツⅠ	ReLd05	
		健康スポーツⅡ	ReLd06	
	専門基礎科目 F	人体の構造と機能 及び心身の発達 a	解剖学Ⅰ	ReFa01
			解剖学Ⅱ	ReFa02
			解剖学演習	ReFa03
解剖学実習			ReFa04	
生理学Ⅰ			ReFa05	
生理学Ⅱ			ReFa06	
生理学実習			ReFa07	
運動学総論			ReFa08	
運動学演習Ⅰ			ReFa09	
運動学演習Ⅱ			ReFa010	
運動学実習			ReFa011	
機能解剖学実習			ReFa012	
臨床運動学			ReFa013	
人間発達学			ReFa014	
疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 b		薬理学	ReFb01	
		病理学	ReFb02	
		小児科学	ReFb03	
		老年学	ReFb04	
		内科学	ReFb05	
		神経学	ReFb06	
		整形外科学	ReFb07	
		精神医学	ReFb08	
		精神医学演習	ROFb01	
		臨床心理学	ReFb09	
栄養学		ReFb10		
救急救命学		ReFb11		
公衆衛生学		ReFb12		
言語聴覚療法概論		ReFb13		
臨床検査・画像診断学	ReFb14			
保健医療福祉と リハビリテーションの理念 c	リハビリテーション概論	ReFc01		
	チームアプローチ入門	ReFc02		
	保健医療福祉連携論	ReFc03		

…PTOT共通			
科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	
専門科目 M	基礎作業療法学 a	作業療法学概論	ROMa01
		基礎作業学	ROMa02
		基礎作業学演習Ⅰ	ROMa03
		基礎作業学演習Ⅱ	ROMa04
		トランスレーショナルセミナーⅠ	ReMa01
		トランスレーショナルセミナーⅡ	ReMa02
		トランスレーショナルセミナーⅢ	ReMa03
		トランスレーショナルセミナーⅣ	ReMa04
		作業療法研究法Ⅰ	ROMa05
		作業療法研究法Ⅱ	ROMa06
	作業療法管理学b	作業療法管理学	ROMb01
	作業療法評価学 c	作業療法評価学	ROMc01
		身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	ROMc02
		身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	ROMc03
		精神障害作業療法評価学演習	ROMc04
		高次脳機能障害作業療法評価学演習	ROMc05
	作業療法治療学 d	作業療法理論	ROMd01
		身体障害作業療法Ⅰ	ROMd02
		身体障害作業療法Ⅱ	ROMd03
		身体障害作業療法演習	ROMd04
		精神障害作業療法	ROMd05
		精神障害作業療法演習	ROMd06
		高齢期作業療法	ROMd07
		高齢期作業療法演習	ROMd08
		発達障害作業療法	ROMd09
		高次脳機能障害作業療法	ROMd10
日常生活活動学		ROMd11	
義肢装具学		ROMd12	
福祉レクリエーション論		ROMd13	
先端作業療法		ROMd14	
臨床実習 e	臨床実習Ⅰ（体験実習）	ROME01	
	臨床実習Ⅱ（評価実習）	ROME02	
	臨床実習Ⅲ（地域実習）	ROME03	
	臨床実習Ⅳ（総合実習）	ROME04	
	臨床実習Ⅴ（総合実習）	ROME05	
地域作業療法学 f	地域生活支援論	ROMf01	
	地域作業療法学	ROMf02	
	職業リハビリテーション論Ⅰ	ROMf03	
	職業リハビリテーション論Ⅱ	ROMf04	
	生活環境論	ROMf05	
	福祉住環境論	ROMf06	
特別演習 g	作業療法学総合演習Ⅰ	ROMg01	
	作業療法学総合演習Ⅱ	ROMg02	

教員一覧

	氏名	電話番号	E-mail
1	あみもと かず 網本 和	022-308-2071 (代表)	k_amimoto@seiyogakuin.ac.jp
2	はら かずひこ 原 和彦		k_hara@seiyogakuin.ac.jp
3	いはし こうじ 伊橋 光二		k_ihashi@seiyogakuin.ac.jp
4	かねや さとみ 金谷 さとみ		s_kaneya@seiyogakuin.ac.jp
5	とざと ふさえ 外里 富佐江		f_tozato@seiyogakuin.ac.jp
6	ひらやま かずみ 平山 和美		k_hirayama@seiyogakuin.ac.jp
7	さいとう ゆうき 齋藤 佑樹		yu_saitou@seiyogakuin.ac.jp
8	おおわだ ひろみ 大和田 宏美		h_oowada@seiyogakuin.ac.jp
9	おおはし たかこ 大橋 孝子		t_oohashi@seiyogakuin.ac.jp
10	すとう あゆみ 須藤 あゆみ		a_sutou@seiyogakuin.ac.jp
11	さかがみ ひさお 坂上 尚穂		h_sakagami@seiyogakuin.ac.jp
12	こせき ともり 小関 友記		tm_koseki@seiyogakuin.ac.jp
13	とだ ゆうこ 戸田 祐子		y_toda@seiyogakuin.ac.jp
14	いとう だいすけ 伊藤 大亮		d_itou@seiyogakuin.ac.jp
15	もりなが ゆう 森永 雄		y_morinaga@seiyogakuin.ac.jp
16	くまがい りゅうた 熊谷 竜太		r_kumagai@seiyogakuin.ac.jp
17	すずき ゆうじ 鈴木 裕治		y_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
18	ささき ひろと 佐々木 広人		ht_sasaki@seiyogakuin.ac.jp
19	たかはし さとし 高橋 慧		s_takahashi@seiyogakuin.ac.jp
20	あらまき よしひろ 荒牧 隼浩		y_aramaki@seiyogakuin.ac.jp
21	こまつ よしのり 小松 佳路		ys_komatsu@seiyogakuin.ac.jp

実務経験を有する教員一覧

【リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻】

科目名称	履修年次	単位数	教員氏名	実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性
解剖学Ⅰ	1年	2	大和田 宏美	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が人体の構造と機能について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
運動学総論	1年	1	原 和彦	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が身体運動の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
運動学演習Ⅰ	1年	1	原 和彦 坂上 尚穂	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が人の活動制御の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
運動学実習	2年	1	原 和彦 森永 雄	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
臨床運動学	2年	2	網本 和 原 和彦	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が疾患特有の姿勢や動作、病態・障害像および疾患別の異常歩行等について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
高次脳機能障害学	3年	1	網本 和	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が高次脳機能障害について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
神経筋疾患理学療法学	3年	2	網本 和 大和田 宏美	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が神経筋疾患に関する理学療法について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
義肢装具学	3年	2	原 和彦	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が義肢装具について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
義肢装具学演習	3年	1	原 和彦	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が義肢装具について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
合計		13	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
		124	設置基準上の標準単位数	

【リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻】

科目名称	履修年次	単位数	教員氏名	実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性
解剖学Ⅰ	1年	2	大和田 宏美	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が人体の構造と機能について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
運動学総論	1年	1	原 和彦	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が身体運動の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
運動学演習Ⅰ	1年	1	原 和彦 坂上 尚穂	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が人の活動制御の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
運動学実習	2年	1	原 和彦 森永 雄	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
臨床運動学	2年	2	網本 和 原 和彦	理学療法士としての実務経験を活かし、学生が疾患特有の姿勢や動作、病態・障害像および疾患別の異常歩行等について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
作業療法管理学	4年	2	齋藤 佑樹	作業療法士としての実務経験を活かし、学生が作業療法管理について具体的にイメージして考察を深められるような授業を展開する。
作業療法理論	3年	2	齋藤 佑樹	作業療法士としての実務経験を活かし、学生が作業療法理論について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
日常生活活動学	3年	2	齋藤 佑樹	作業療法士としての実務経験を活かし、学生が日常生活活動・手段的日常生活活動について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
合計		13	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
		124	設置基準上の標準単位数	

2024(令和6)年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。